

酒田市スポーツ推進計画

スポーツによる健康な市民生活と
魅力あるまちづくりを推進する

— 「する」「みる」「ささえる」「しる」スポーツの推進—



平成 31 年 3 月

酒田市教育委員会

令和 3 年 8 月 変更

令和 8 年 2 月 一部改訂

はじめに

本市における教育行政、とりわけスポーツの振興につきましては、日頃から多大なるご協力とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、少子高齢化に伴う人口減少など社会情勢が大きく変化する中、スポーツが果たす役割には体力向上と健康増進に加えて、地域経済の活性化やコミュニティの再生など、大きな期待が寄せられています。これらを踏まえ、本市では「酒田市総合計画」「酒田市教育振興基本計画」を推進する個別計画として「酒田市スポーツ推進計画」を平成30年度に策定し、「「する」「みる」「ささえる」～スポーツを楽しみ、健康で魅力あるまち酒田～」を基本理念として、スポーツの振興に取り組んでまいりました。その後、策定から6年が経過し、この間、社会情勢やスポーツを取り巻く環境が変化してきました。国においては「第3期スポーツ基本計画」が令和4年度から5年間の計画期間でスタートしました。また、山形県においては「第2期山形県スポーツ推進計画」が令和7年度から5年間の計画期間でスタートしております。これらの関連計画を参酌しつつ、令和7年度に「酒田市スポーツ推進計画」の中間見直しを行いました。

中間見直し後の本計画では、「スポーツによる健康な市民生活と魅力あるまちづくりを推進する - 「する」「みる」「ささえる」「しる」スポーツの推進 -」を基本理念として、ウェルビーイングなまちの実現を目指すこととしております。

令和7年11月に開催された「東京2025デフリンピック」では本市出身の3名の選手が躍動し、2つのメダルを獲得するなど、多くの市民に感動を与えてくれました。これを契機として、基本理念に新たに「しる」スポーツを加えました。年齢や性別、障がいの有無などに関わらず、すべての市民に「しる」機会を提供し、理解を深めていただくことで、誰もが活躍できる共生社会が実現できるものと信じております。

結びに、本計画の中間見直しにあたり、ご審議をいただきました酒田市スポーツ推進審議会委員の皆さまをはじめ、貴重なご意見をお寄せいただきました関係各位に深く感謝を申し上げます。

令和8年2月

酒田市教育委員会教育長 赤坂 宜紀

酒田市スポーツ推進計画

<目次>

第1章 計画の基本事項

1	計画策定の趣旨	1
2	計画策定の背景	1
3	計画の位置付け	2
4	運動とスポーツの定義及び表記	3
5	体育施設とスポーツ施設	3
6	計画期間	3

第2章 スポーツをとりまく現状と課題

1	現状・課題	4
2	スポーツ団体	5
3	体育施設の利用状況	8
4	児童生徒の体力・運動能力の現状	9

第3章 基本方針・基本施策

1	基本的な考え方	10
2	施策体系	10
3	基本目標・推進項目	11
	基本目標Ⅰ 誰もが楽しめる生涯スポーツ	11
	Ⅰ-(1) 生涯にわたり誰もが楽しめるスポーツ機会の創出	
	Ⅰ-(2) 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上	
	Ⅰ-(3) スポーツを通じた健康増進	
	Ⅰ-(4) スポーツを通じた共生社会の実現	
	基本目標Ⅱ 感動と活力に満ちた競技スポーツ	16
	Ⅱ-(1) トップアスリートの育成・強化の推進	

- II-(2) 競技スポーツに対する推進体制の充実
- II-(3) トップレベルのスポーツに触れる機会の創出

基本目標Ⅲ スポーツによる賑わいとまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- III-(1) スポーツツーリズムの推進
- III-(2) スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生
- III-(3) プロスポーツチーム等との連携

基本目標Ⅳ 安全安心なスポーツ活動のための環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

- IV-(1) 体育施設の整備等
- IV-(2) 体育施設の利用促進
- IV-(3) スポーツを楽しむ環境整備

第4章 計画の推進・進捗管理

- 1 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 2 計画の進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

資料

- 1 計画の中間見直し経過及び酒田市スポーツ推進審議会委員名簿・・・・・・・・ 26
- 2 アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
 - ①令和6年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」・・・・ 27
 - ②令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」・・・・・・ 35
- 3 計画における数値目標の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

第1章 計画の基本事項

1 計画策定の趣旨

少子高齢化を伴う人口減少によって、体力向上と健康増進の役割に加えて、地域経済の活性化やコミュニティ^{*1}の再生など、スポーツの果たす役割への期待はますます大きくなっています。

本市では、平成25年度から「知力 体力 いきいき市民～ひとり1スポーツで元気なまちづくり～」をスローガンに掲げ、市民の誰もが心身の健康の保持増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会の実現を目指して、スポーツの振興に取り組んできました。

本市の目指すまちの姿を示した「酒田市総合計画」（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和9年度（2027年度））^{*2}も「賑わいも暮らしやすさも共に創る公益のまち酒田」を合言葉にスタートしています。

以上のことから、酒田市教育委員会（以下、「市教育委員会」という。）は、スポーツを取り巻く状況の変化を踏まえ、これまでの取り組みを継承しつつ、スポーツ推進の新たな指針として「酒田市スポーツ推進計画」（以下、「本計画」という。）を平成31年3月に策定しました。

今般、本計画の策定から6年が経過したため、社会情勢やスポーツを取り巻く環境の変化に対応し、今後さらに本市のスポーツ振興施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、すべての市民が運動やスポーツを通してウェルビーイング^{*3}なまちの実現を目指すため、本計画の中間見直しを行うものです。

2 計画策定の背景

(1) わが国の動向

国においては、「スポーツ振興法」が50年ぶりに全面改正され、スポーツ推進のための基本的な法律として「スポーツ基本法」が平成23年8月に施行されました。

同法の施行に伴い、平成24年3月に「スポーツ基本計画」が策定され、平成29年3月にはスポーツ基本計画の次期計画として、「第2期スポーツ基本計画」が策定されました。

令和4年3月に、「第3期スポーツ基本計画」（計画期間：令和4年度からの5年間）が策定され、第2期スポーツ基本計画の中長期的な4つの指針を踏襲しつつ、スポーツを「つ

*1 地域課題を自ら解決しようとする地縁に基づく自治組織及び一定区域における総合的な自治組織。

*2 行政と市民がめざすまちの姿を共有し、一丸となってまちづくりに取り組むための指針であり、市の最上位計画として位置づけられるもの。

*3 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

くる／はぐくむ」などの新たな視点に加え、スポーツそのものが有する価値や、スポーツを通じた地域活性化等に寄与する価値を高めるために取り組むべき方向性が示されています。

(2) 山形県の動向

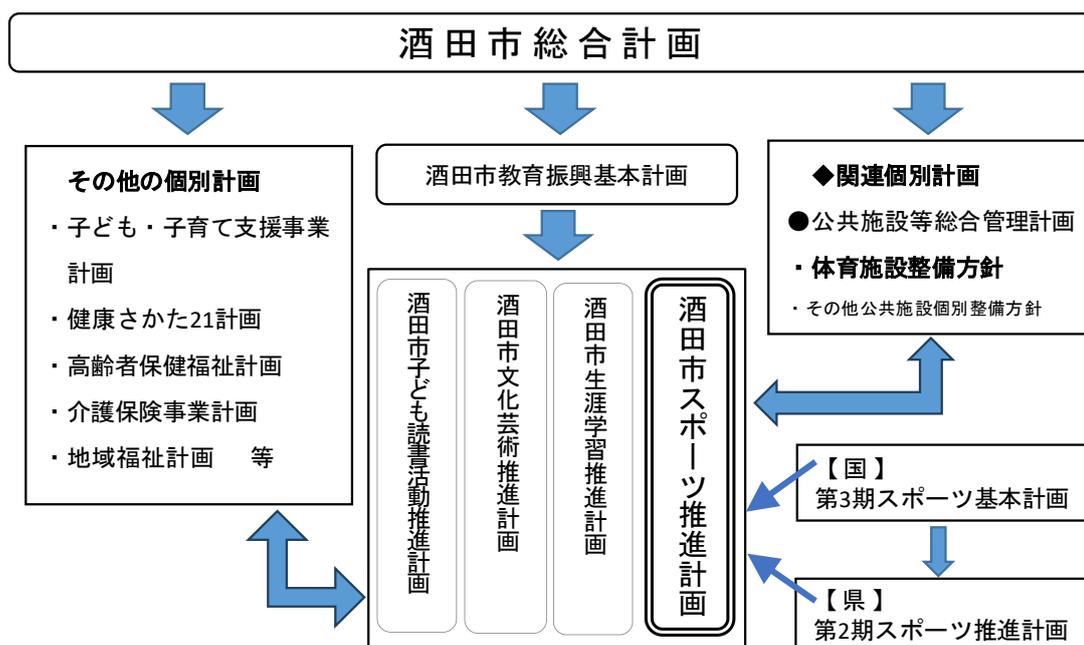
山形県では、平成 25 年度からの「山形県スポーツ推進計画」(計画期間：平成 25 年度から令和 6 年度の 12 年間)に基づくこれまでの取組みの成果や課題、この間のスポーツをめぐる状況の変化等を踏まえ、今後の山形県におけるスポーツの推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、新たに「第 2 期山形県スポーツ推進計画」(計画期間：令和 7 年度からの 5 年間)を策定しました。

3 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第 10 条の規定に基づき、国の「第 3 期スポーツ基本計画」及び山形県の「第 2 期山形県スポーツ推進計画」を参酌し、地方の実情に則したスポーツの推進に関する計画として策定するものです。

また、上位計画である「酒田市総合計画」「酒田市教育振興基本計画」を推進する個別計画として、本市が策定する各個別計画と連携・整合を図りながら策定します。

なお、本計画上の「基本目標IV-(1)体育施設の整備等」の推進にあたり、既存施設の現状や課題を把握し、今後の体育施設のあり方等について、具体的な方針を定め、市民のニーズに対応した計画的かつ効率的な施設整備に取り組むための「酒田市体育施設整備方針」を別に策定します。



4 運動とスポーツの定義及び表記

本計画では、体を動かす活動全般を「運動」とし、以下に記載する「スポーツ」と区別します。

「スポーツ」とは、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦する競技スポーツに加え、散歩やダンス・ウォーキング・健康体操・ストレッチなど比較的軽い運動、健康づくりや体力づくりを目的とする通勤・通学時の徒歩や自転車、キャンプ活動など、目的意識を持った身体活動を含むものとします。

また、競技会場等で実際にスポーツを観戦するなどの「みるスポーツ」や、スポーツイベントのボランティア活動等の「ささえるスポーツ」も含まれます。

5 体育施設とスポーツ施設

本計画における「体育施設」とは、地方公共団体である酒田市が設置し、酒田市民及び一般の利用を目的とした体育館や運動場など「酒田市体育施設設置管理条例」別表第1（第2条関係）で定めた施設とします。

また、「スポーツ施設」とは、体育施設及び民間のスポーツ施設を含む施設とします。

6 計画期間

本計画の期間は、平成31年度から令和11年度までの11年間とします（見直し計画期間：令和8年度から令和11年度）。

	2017 (平成29年)	2018 (平成30年)	2019 (平成31年) (令和元年)	2020 (令和2年)	2021 (令和3年)	2022 (令和4年)	2023 (令和5年)	2024 (令和6年)	2025 (令和7年)	2026 (令和8年)	2027 (令和9年)	2028 (令和10年)	2029 (令和11年)
大規模大会		冬季オリ・パラ (平昌)	ラグビーW杯	夏季オリ・パラ (東京) 延期	夏季オリ・パラ (東京)	冬季オリ・パラ (北京)		夏季オリパラ (パリ)	東京2025 デフリンピック	冬季オリパラ (ミラノ、 コルティナ)	サマースポーツ 2027関西大会	夏季オリパラ (ロサンゼルス)	
国	第2期スポーツ基本計画（2017年度～2021年度） ※見直し					第3期スポーツ基本計画 （2022年度～2026年度）							
山形県	山形県スポーツ推進計画（2013年度～2024年度）※当初の終了期間より2年延長								第2期山形県スポーツ推進計画 （2025年度～2029年度）				
			全日本社会人ソフト ボール選手権大会		全日本シニア体操 競技選手権大会					東日本ソフト ボール大会 日本社会人 バスケボール フリースロー リーグ40			
酒田市	酒田市総合計画（2018年度～2027年度）※後期計画（2023年度～2027年度）												
	酒田市教育振興基本計画（2020年度～2029年度）												
	見直し		酒田市スポーツ推進計画（2019年度～2029年度）						中間 見直し				

第2章 スポーツを取り巻く現状と課題

1 現状・課題

(1) 現行の計画を踏まえて

本市では、運動を習慣にしている人としていない人の二極化が見られることから、市民がそれぞれのライフステージに応じて運動に取り組める環境の整備と、運動をしていない人への積極的な働きかけによって、延び続ける平均寿命*4と、健康寿命*5との差を縮めていく必要があります。

また、子どもに関しては、日常的な身体運動が減少し、体力が低下してきています。

このことを踏まえ、これまでスポーツに関わってこなかった人に、スポーツを「する」「みる」「ささえる」「しる」機会に参加してもらうことが重要となっています。

身体運動の増加、運動習慣の定着は、生活習慣病*6の予防や良質な睡眠、うつ病予防など心の健康とも深い関わりがあり、各年代で気軽に取り組めるウォーキングやストレッチ、筋力トレーニング等の運動を、民間を含めた関係機関との連携のもと推進していく必要があります。

競技力の向上としては、競技者としてスポーツに取り組む選手が減少している中、全国に通用するトップアスリート*7を育成するために、中学校や高等学校における年代に応じた選手の育成と強化及びスポーツ環境の整備が課題となっています。

本市では人口減少が加速しており、スポーツに関わる人材の高齢化により、各組織の体制や部活動の地域展開への影響が懸念されるため、各組織の体制づくりの再構築が必要になってきています。

また、施設のあり方に関しても、安全で快適な活動の場を提供するため、人口減少に見合った施設の統廃合及び集約化も視野に入れ、老朽化した施設の計画的な改修、施設の適正な管理、適正な配置を長期的な視点で検討する必要があります。SDGs*8に配慮し、環境負荷を抑え、利用者のニーズに応えながら、持続可能な施設運営を目指します。

(2) アンケートから

- ①市民アンケート（対象：満18歳以上の市民、調査方法：オンライン、回答数：716件
／令和7年2月28日実施）

*4 0歳の平均余命、あるいは出生時における平均余命。

*5 介護を受けたり寝たきりになったりせず日常生活を送れる期間。

*6 偏った食事や喫煙・飲酒・運動不足などの生活習慣に起因すると考えられる病気の総称。

*7 その競技で最高水準の実力を認められている運動選手。

*8 2016年から2030年の間に達成を目指す国際目標で、17の目標と169のターゲットから成っている。

日頃、運動不足を感じている人の割合は約8割となっています。運動やスポーツが大切と考えている人の割合は9割を超えており、「運動・スポーツは大切」と答えた人の方が、スポーツ実施率が高い傾向にあります。この1年間で運動・スポーツを実施した理由については、「健康のため」が最も多く、「楽しみ、気晴らしとして」「体力増進・維持のため」と続いています。

②小・中学生アンケート（令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査より）

「運動やスポーツが好き」という人の割合は、本市の小・中学生とも6割程度いますが、一方で、運動やスポーツをしている人としていないという人との二極化の傾向がみられます。

学習以外のスクリーンタイム^{*9}について、本市小学生の男女とも全国・県平均より時間は短くなっていますが、中学生は男女とも「3時間以上」の全国・県平均の割合より大きくなっています。「3時間以上」の割合は、中学生の男女とも54%を超えています。

2 スポーツ団体

本市には、スポーツを推進するにあたり多様なスポーツ団体^{*10}があり、より多くの市民が関心や興味、適性等に応じて、生涯にわたりスポーツに親しむ機会を提供しています。市内のスポーツ団体等の主な活動状況は次のとおりです。

（令和8年2月現在）

スポーツ団体	備考
<p>（1）酒田市スポーツ振興会</p> <p>市内にある地区体育・スポーツ振興会相互の親睦、連絡提携につとめ、市民スポーツの普及、振興に寄与しています。</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区住民を対象とした運動会やスポーツ教室等の開催、運営。 ※地区運動会やグラウンドゴルフ大会・カローリング大会 輪投げ大会・ウォーキング大会 他 ・市スポーツフェスティバルの大会運営及び内容等の検討 ・湊酒田つや姫ハーフマラソン大会の運営 ・市駅伝競走大会のコース設定及び大会運営 等 	<p>市内各地 区体育・ スポーツ 振興会の 数 26 組織</p>

*9 一日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等の映像の視聴時間のこと。

*10 スポーツ基本法第2条第2項において、「スポーツの振興のための事業を主たる目的とする団体をいう」とされており、住民が主体的に運営する地域スポーツクラブ等を広く含むもの。

<p>(2) 酒田市スポーツ推進委員会</p> <p>住民のスポーツ推進のために地区体育・スポーツ振興会との連携を図り、協力しながら各種講習会で習得した知識・技術を活かし、地域スポーツの振興及びコーディネーターとしての役割を果たしています。</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区住民を対象とした運動会やスポーツ教室等の開催、運営。 ※地区運動会やグラウンドゴルフ大会・カローリング大会 輪投げ大会・ウォーキング大会・モルック大会 他 ・市スポーツフェスティバルの大会運営及び内容等の検討 ・湊酒田つや姫ハーフマラソン大会の運営 ・市駅伝競走大会のコース設定及び大会運営 等 	<p>委嘱人数</p> <p>78人</p>
<p>(3) 公益財団法人 酒田市スポーツ協会</p> <p>加盟団体と連携しながら、スポーツ活動を通して健康体力の向上と競技力の向上を図っています。また、競技団体の育成強化及び、スポーツ指導者の育成と資質向上にも努めています。</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室事業の開催及びスポーツイベントの推進 ・国民スポーツ大会及び障害者スポーツ大会出場者への支援 ・競技団体の育成と強化及び酒田市スポーツ大会の開催 ・各競技スポーツ指導者の育成と資質向上への支援 等 	<p>加盟競技 団体数</p> <p>29団体</p>
<p>(4) 総合型地域スポーツクラブ*11</p> <p>市内の中学校区を基本エリアとして設立されており、幅広い世代の人々が各自の興味や関心、競技レベルに合わせて「いつでも どこでも だれでも いつまでも」様々なスポーツに触れることができる機会を提供しています。</p> <p>【団体の名称とエリア】 ※ () 内は対象エリア</p> <ol style="list-style-type: none"> ①酒田市スポーツクラブ (市内全域) ②希望ヶ丘体育文化振興会 (一中学区) ③六華スポーツクラブ (六中学区) ④鳥海ふれあいスポーツクラブ (上田地区・本楯地区・南遊佐地区) ⑤きらり川南スポーツクラブ (四中学区) ⑥やわたY-Yクラブ (八幡地区) ⑦みなスポ松山 (松山地区) 	<p>登録数</p> <p>9団体</p>

*11 地域住民が主体的・自主的に組織・運営する非営利なスポーツクラブのこと。特定のスポーツを行う単一型の地域スポーツクラブと異なり、複数の種目について個々のレベルや趣味に応じてプログラムが選べるように構成されている。

<p>⑧ひらた目ん玉スポーツクラブ（平田地区）</p> <p>⑨総合型地域スポーツクラブ 元気王国（市内全域）</p>	
<p>（５）酒田市スポーツ少年団本部</p> <p>学校活動以外のスポーツ活動を通して、スポーツ少年団に関する事項を研究・協議し、青少年の心身の健全な育成並びに指導者及び団員相互の親睦を図っています。</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の育成、組織化の推進 ・スポーツ少年団活動の調査研究 ・市スポーツ少年団本部大会 （サッカー・野球・ミニバスケットボール・バレーボール・剣道・卓球） ・運動適性テスト（体力測定）の実施 ・指導者研修会 ・日本スポーツ協会公認スタートコーチ（ジュニア・ユース）養成講習会 ・酒田市・遊佐町交流大会 等 	<p>登録団数</p> <p>72 団</p> <p>登録人数</p> <p>（団員）</p> <p>1,226 人</p> <p>（指導者）</p> <p>245 人</p>

3 体育施設の利用状況

(単位：人)

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1 加藤総業光ヶ丘プール	130,275	123,156	124,929	118,291	131,314
2 INPEX酒田アリーナ	41,967	52,890	60,669	0	78,277
3 電機鉄工武道館(武道館)	28,845	28,275	34,279	39,842	41,937
4 DENKI TEKKOフィールド(光ヶ丘陸上競技場)	45,219	44,916	48,299	47,445	38,915
5 親子スポーツ会館	30,458	33,821	33,950	35,240	34,425
6 八森ゴルフ練習場	27,299	30,359	31,198	30,840	27,035
7 光ヶ丘テニスコート	22,363	26,905	27,254	26,525	24,845
8 国体記念テニスコート	14,869	16,833	15,745	20,245	21,439
9 勤労者体育センター	14,048	15,243	18,010	19,237	21,220
10 光ヶ丘球技場	14,122	17,882	20,761	21,158	19,892
11 亀ヶ崎記念会館	8,787	9,958	13,329	15,066	16,455
12 平田B&G体育館	10,710	11,431	11,931	13,613	16,439
13 屋内練習場	11,903	12,410	14,442	14,501	14,355
14 八森パークゴルフ場	11,000	10,707	11,345	9,395	9,316
15 光ヶ丘野球場	6,231	12,011	13,597	2,212	8,692
16 松山体育館	4,139	4,851	5,670	7,918	7,572
17 南体育館	7,474	7,777	10,202	8,626	7,462
18 平田体育館	7,197	4,826	5,612	5,976	5,607
19 松山多目的運動広場	2,269	2,773	4,224	5,663	4,996
20 高畑グラウンドゴルフ場	3,128	4,298	4,695	3,665	4,473
21 DENKI TEKKOグラウンド(光ヶ丘多目的グラウンド)	2,166	2,144	2,742	3,530	4,203
22 東北エブソン飯森山グラウンド(飯森山多目的グラウンド)	4,045	3,973	10,980	7,393	3,581
23 南遊佐グラウンドゴルフ場	4,776	4,246	4,865	3,143	3,481
24 八幡体育館	14,304	15,021	18,049	24,292	3,279
25 八森グラウンドゴルフ場	4,122	3,856	3,251	2,913	2,637
26 平田B&Gプール	1,773	2,658	2,252	3,136	2,541
27 松山スキー場	2,024	2,374	2,837	192	2,384
28 東北メンテナンス八森テニスパーク(八森テニスコート)	1,360	1,347	1,811	1,507	1,763
29 八森野球場	1,522	1,563	1,930	1,454	1,497
30 修道館	487	1,185	1,715	758	972
31 平田B&Gヨット・カヌー場	1,103	1,055	1,171	884	961
32 外山キャンプ場	702	758	1,290	960	947
33 鳥海地区体育館	245	298	347	1,321	844
34 眺海の森グラウンド	1,008	1,905	1,671	1,077	547
35 八森キャンプ場	103	274	308	287	292
36 相撲場	0	0	0	35	56
37 八森サッカー場	352	290	281	220	0
38 眺海の森テニスコート	8	12	10	17	-
39 平田スキー場	164	27	54	1	-
40 酒田市体育館	2,474	5,626	5,348	10,483	-
41 スワンスケートリンク	12,338	9,560	16,688	18,196	-
42 山小舎	-	-	-	-	-
合計	497,379	529,494	587,741	527,257	564,651

4 児童生徒の体力・運動能力の現状

体力・運動能力調査の結果から、全国、山形県及び本市における種目別平均値を次の表に示します。上体起こしでは小学生・中学生全ての学年で全国や山形県の平均値を上回っています。しかし、握力では小学生の全ての学年で全国や山形県の平均値を下回っています。小学生女子では約4割の種目で全国および山形県の平均値を上回っています。

中学生男子では半数以上の17種目で山形県の平均値を上回っています。中学生女子では、半数の12種目で全国や山形県の平均値を上回っています。しかし、20mシャトルランと50m走、持久走では一部を除き、中学生男女で全国や山形県の平均値を下回っています。

小学生男子	男子																	
	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生		
	R07市	R6県	R6全国															
握力 (kg)	8.87	9.12	8.92	10.64	10.71	10.47	12.03	12.41	12.36	13.95	14.16	14.30	15.73	16.55	16.09	18.82	19.40	19.31
上体起こし (回)	11.93	11.49	11.62	15.25	14.21	14.20	16.39	15.95	16.19	17.93	17.62	18.17	20.62	19.48	19.81	21.37	20.70	22.45
長座体前屈 (cm)	26.64	26.48	26.42	27.85	27.54	28.41	29.15	29.65	30.41	33.16	30.69	31.87	32.97	33.28	33.41	35.83	34.83	36.48
反復横跳び (点)	27.10	27.23	27.23	32.58	31.26	31.06	35.05	35.06	34.52	39.82	39.07	39.07	43.07	42.40	42.07	46.01	45.25	45.91
20mシャトルラン (回)	18.19	19.00	17.95	28.23	28.51	27.26	34.95	35.96	34.85	46.15	43.47	43.71	50.86	49.43	50.51	59.45	56.94	59.96
50m走 (秒)	12.08	11.78	11.59	10.97	10.92	10.69	10.56	10.37	10.19	9.90	9.95	9.70	9.68	9.59	9.38	9.15	9.26	8.90
立ち幅跳び (cm)	113.91	113.86	116.02	125.46	125.87	126.53	133.10	134.91	135.44	144.53	143.68	145.59	151.37	152.44	154.01	161.91	161.76	166.56
ボール投げ (m)	8.18	8.80	8.34	11.52	12.21	11.80	14.36	15.60	15.05	18.52	18.59	18.95	22.12	21.65	21.67	23.10	24.34	25.67

小学生女子	女子																	
	1年生			2年生			3年生			4年生			5年生			6年生		
	R07市	R6県	R6全国															
握力 (kg)	8.29	8.59	8.42	10.00	10.04	9.95	11.65	11.66	11.65	13.12	13.54	13.58	15.98	16.27	15.99	18.19	19.01	19.36
上体起こし (回)	11.97	11.42	11.07	14.39	13.63	13.18	16.87	15.30	16.12	17.37	16.87	17.10	20.15	18.43	18.86	19.98	19.38	20.15
長座体前屈 (cm)	29.94	28.60	29.06	30.74	30.23	30.94	32.99	32.66	33.18	35.26	34.37	35.17	36.68	37.61	38.34	40.53	39.38	41.21
反復横跳び (点)	26.67	26.76	26.35	31.82	30.15	29.57	33.76	33.93	32.92	37.42	37.77	37.08	43.06	40.90	40.38	43.59	43.37	42.95
20mシャトルラン (回)	15.65	16.11	15.29	23.31	22.52	21.30	30.21	27.97	27.59	35.95	35.10	33.63	43.59	40.53	40.01	47.46	46.15	45.55
50m走 (秒)	12.15	12.04	11.95	11.08	11.24	11.07	10.70	10.69	10.43	10.21	10.21	10.04	9.80	9.79	9.64	9.41	9.43	9.24
立ち幅跳び (cm)	111.74	106.89	108.22	119.23	117.77	117.90	128.60	127.08	128.02	135.42	136.82	136.04	146.72	145.82	145.38	152.76	152.79	155.61
ボール投げ (m)	5.82	5.89	5.69	7.71	7.79	7.37	9.60	9.86	9.47	11.90	12.06	11.57	13.73	14.30	13.56	15.95	16.30	15.68

中学生	男子									女子								
	1年生			2年生			3年生			1年生			2年生			3年生		
	R07市	R6県	R6全国															
握力 (kg)	24.07	23.86	24.29	29.01	29.74	29.46	34.77	34.98	34.41	20.37	21.23	21.45	23.78	23.31	23.58	23.99	24.87	25.29
上体起こし (回)	23.72	22.41	23.81	26.37	25.66	26.72	29.02	27.73	29.02	19.43	19.37	20.10	21.45	20.93	22.07	22.38	22.28	23.92
長座体前屈 (cm)	40.46	40.26	41.72	44.54	44.14	45.21	47.83	47.50	48.99	42.46	43.87	44.65	47.14	45.70	46.46	47.30	48.44	49.79
反復横跳び (点)	48.24	48.23	50.18	50.92	51.67	53.43	55.67	54.26	56.57	44.51	44.76	45.77	46.47	45.82	47.05	47.04	46.42	48.80
20mシャトルラン (回)	63.85	64.81	67.81	76.88	80.51	83.12	87.06	86.99	90.60	44.22	47.19	47.39	49.34	51.91	54.17	48.41	53.48	56.06
50m走 (秒)	8.61	8.61	8.41	8.05	7.98	7.82	7.61	7.59	7.47	9.30	9.15	9.07	8.90	8.97	8.80	8.95	8.88	8.66
立ち幅跳び (cm)	184.53	181.57	187.07	199.73	199.22	203.20	215.36	213.36	216.97	160.95	163.05	166.43	170.68	165.76	172.38	170.73	169.10	176.79
ボール投げ (m)	17.99	17.56	18.38	21.75	20.81	21.36	24.79	23.23	23.96	11.49	11.35	11.43	12.79	12.37	13.14	13.25	13.61	14.38
持久走 (秒)	422.64	443.28	423.77	435.84	405.26	390.05	418.13	388.58	377.90	368.16	315.51	313.36	338.09	302.41	298.12	311.66	300.68	294.53

出典: 全国／全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果(スポーツ庁)
 山形県／山形県体力・運動能力調査結果(山形県教育局)
 酒田市／山形県体力・運動能力調査結果(酒田市教育委員会)

第3章 基本方針・基本施策

1 基本的な考え方

スポーツ基本法の前文に謳われているように、スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすという内在的な価値を有するとともに青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会経済の活力の創造など、生活において多面にわたる役割を担うものです。

このようなスポーツの役割の重要性を踏まえ、多くの市民が「する」「みる」「ささえる」「しる」といったさまざまな形でスポーツに参加し、ウェルビーイングなまちの実現に向け、本計画においては、次の4つの基本目標を立て、「スポーツによる健康な市民生活と魅力あるまちづくり」を目指して、スポーツの推進に取り組んでいきます。

2 施策体系

【基本理念】

スポーツによる健康な市民生活と魅力あるまちづくりを推進する

－「する」「みる」「ささえる」「しる」スポーツの推進－

【基本目標】

【推進項目】

I 誰もが楽しめる
生涯スポーツ

- (1) 生涯にわたり誰もが楽しめるスポーツ機会の創出
- (2) 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上
- (3) スポーツを通じた健康増進
- (4) スポーツを通じた共生社会の実現

II 感動と活力に満ちた
競技スポーツ

- (1) トップアスリートの育成・強化の推進
- (2) 競技スポーツに対する推進体制の充実
- (3) トップレベルのスポーツに触れる機会の創出

III スポーツによる
賑わいとまちづくり

- (1) スポーツツーリズムの推進
- (2) スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生
- (3) プロスポーツチーム等との連携

IV 安全安心な
スポーツ活動のための
環境整備

- (1) 体育施設の整備等
- (2) 体育施設の利用促進
- (3) スポーツを楽しむ環境整備

3 基本目標・推進項目

基本目標Ⅰ 誰もが楽しめる生涯スポーツ

年齢や性別、障がいの有無に関係なく、市民が誰でも気軽にスポーツを「する」「みる」「ささえる」活動を楽しむことで、心身の健康の保持増進と健康で活力に満ちた長寿社会の実現を目指します。

また、「しる」活動としては、スポーツの種類（競技種目）やそのルール、スポーツが身体に及ぼす影響や効果、プロスポーツ、障がい者スポーツなど、スポーツへの理解を深めてもらえるように幅広く市民にアプローチし、スポーツの裾野を広げていきます。

《現状と課題》

（１）生涯スポーツ^{*12}

市全体のスポーツ振興を見たとき、地区ごとで活動に温度差があります。コーディネーターの役割を担うスポーツ推進委員は、各種研修へ参加するなど、自ら資質向上に取り組んでいく必要があります。

地域住民主体で運営される「多世代・多種目・多志向」のスポーツクラブである総合型地域スポーツクラブの活動については、関係団体と本来のあり方や支援方法の検討が必要となっています。

また、高齢者のみの世帯が増加し、運動習慣のある高齢者の割合も少ないことから、さまざまな活動を通して地域との関わりを増やすといったことに取り組む必要があります。

（２）子どもの基礎的運動能力

本市では、幼児期における「遊び」を通じたあらゆるスポーツの基礎となる基本動作を体験させる運動遊びの場を提供しています。幼児期に限らず、次世代を担う子どもたちに日常的に運動・スポーツを実施する習慣や多様な体の動きを身に付けさせる機会を増やし継続させることが必要です。

一方、スポーツ少年団や運動部活動において、過度な活動による児童・生徒の心身の疲弊、健康を害するなどの問題が顕在化していることから、指導・運営に係る体制を再構築していく必要があります。

◆推進項目

Ⅰ－（１）生涯にわたり誰もが楽しめるスポーツ機会の創出

多くの市民が生涯にわたり気軽にスポーツに親しむための環境づくりと、関係団体等

*12 健康の保持増進やレクリエーションを目的として、いつでも、誰でも、どこでも気軽にスポーツに参加できるスポーツ。

と連携した指導者養成により生涯スポーツの推進を図ります。

○施策

①体育・スポーツ振興会、総合型地域スポーツクラブの活動の推進

地域で主体的に活動している体育・スポーツ振興会を支援し、地域におけるスポーツ活動の活性化を図ります。また、総合型地域スポーツクラブの活動に対し、研修機会や情報提供などの側面的な支援をするとともに、市内で活動する総合型地域スポーツクラブ間の連携・協力体制を整備し、交流の活性化を図るために情報交換会を開催します。

②参加しやすいスポーツイベントの開催

地域のコーディネーターの役割を担うスポーツ推進委員の各種研修への参加を充実させ、資質の維持・向上と地域で活躍する人材の育成・活用を図り、多世代が参加しやすい環境を整えながらスポーツイベント等を開催します。

③地域スポーツ活動の充実

地域スポーツ活動を支える指導者とスポーツボランティア^{*13}を育成し、地域スポーツ活動の充実を図ります。

④ニュースポーツ^{*14}の普及・促進

コロナ禍以降、市スポーツ振興会や市スポーツ推進委員会が民間企業と連携して普及してきたモルックを中心に、市民の関心をさらに高め、気軽に参加できるスポーツイベントの創出に取り組みます。

◆推進項目

I - (2) 子どものスポーツ機会の充実と体力の向上

子ども達が心身ともに健やかに成長し、体を動かす楽しさを感じる運動習慣を身に付けるために、学校や地域のさまざまな団体が連携し、子どものスポーツ機会の充実と体力の向上を図ります。

また、中学校運動部活動を取り巻く様々な課題解決に向け、「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン（令和7年12月文部科学省策定）」に則り、中学校運動部活動の地域連携・地域展開に向けた持続可能なスポーツ・文化芸術環境の構築に取り組みます。

○施策

①幼児期から子どもが楽しく運動する取組みの推進

運動・スポーツを実施する習慣を子ども達に身に付けさせるためには、生活の中で自

*13 報酬を目的とせず、自分の労力、技術、時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のための活動を行う人。

*14 体力、技術、性別、年齢に左右されず、誰でも気軽に楽しむことができる軽スポーツの総称。

発的に楽しみながら体を動かして遊ぶ機会を確保する必要があります。関係団体等と連携し、「アクティブ・チャイルド・プログラム^{*15}」の普及・活用の促進を図り、保護者や保育者等に対し、幼児期における運動遊びや身体活動の重要性の意識付けを図ります。

市内の保育園・認定こども園等と連携し、「もっと遊べ酒田の子ども」の運動テキストなどを使いながら、幼児期における運動遊びや子どもの体力向上への取り組みを推進するとともに、乳幼児期における「遊び」を通じたあらゆるスポーツの基礎となる基本動作を体験させる運動遊びの場の充実を図ります。

また、子ども達にスポーツの楽しさを伝えるイベント等を実施し、スポーツに親しむきっかけづくりや運動能力を育てる取り組みを進めていきます。



▲スポーツに出会う機会を創出する
「スポーツ能力測定会」

②地域や関係団体等と連携した子どものスポーツ機会の充実

児童・生徒がそれぞれの興味・関心に応じてスポーツができる環境をスポーツ少年団、地域や関係団体等と連携して形成し、運動を「する」「しない」の二極化の解消に積極的に取り組みます。また、児童・生徒に対する安全かつ効果的な指導に加え、スポーツに対する意欲や楽しさが増すように、地域のスポーツ指導者の積極的な活用等による指導体制の充実を図ります。

③中学校運動部活動改革の推進

中学生等の青少年にとってふさわしいスポーツ環境の実現を目指し、まずは休日の部活動の運営主体を学校から地域へ着実に展開していくとともに、学校と地域が連携・協働して、子ども達にとって望ましいスポーツ環境を構築するため、「山形県における部活動改革のガイドライン（令和5年3月）」に基づき、運動部活動改革を推進します。また、酒田市中学校部活動改革推進協議会において、今後の部活動についての検討を行います。

◆推進項目

I - (3) スポーツを通じた健康増進

市民の多様な健康状態やニーズに応じて、関係団体と連携しつつ、スポーツを通じた健康増進により健康長寿社会の実現を目指します。また、運動に関心のない層にも取り組みやすい環境づくりとして、スマートフォンのアプリなどを活用した運動のきっかけづく

*15 (公財)日本スポーツ協会が開発した、子どもが楽しみながら積極的に体を動かすことができる運動プログラム。

りに取り組みます。

○施策

①子育て世代のスポーツ活動の充実

日常生活にスポーツを取り入れるきっかけづくりとして、市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、市スポーツフェスティバル等のイベントで親子一緒に楽しめるマルチスポーツ教室や親子スポーツ教室を開催します。



▲市スポーツフェスティバルでの運動遊び教室

②働き世代のスポーツ活動の充実

通勤時のウォーキングなどもスポーツであるという認識を普及させるとともに、スマートフォンのアプリの普及を促進し、運動する意識を高め生活習慣病を改善するため、スポーツに取り組む習慣づくりを進めます。

③高齢者のスポーツ活動の充実

スポーツ活動には生活習慣病の改善や介護予防等の効果が期待されるため、自らがその効果を感じながら、高齢者が無理なく継続して取り組める環境づくりを図ります。

◆推進項目

I - (4) スポーツを通じた共生社会の実現

性別や、障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツに親しむことができるよう、関係機関・団体と連携しながら、スポーツを通じた共生社会の実現を目指します。

○施策

①障がい者スポーツの推進

障がい者スポーツに対する市民の理解を深めるため、体験会や大会参加の機会を提供します。酒田市障がい者福祉会と連携・協力し、障がい者スポーツ大会を開催するなど、障がい者が継続して活動することができるように支援します。体育施設において、障がい者を含む全ての市民が楽しく安全にスポーツ活動ができるよう、ユニバーサルデザイン化^{*16}に努めます。

②スポーツにおける女性の活躍推進・ジェンダー平等の実現

市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、ニーズを踏まえたスポーツ機会の提供や、イベント時の託児所の設置など、スポーツをしやすい環境の整備に努

*16 障害の有無に関係なく、すべての人にとって、使いやすいように予め意図されてつくられている建物や製品、情報、環境等のデザイン。

めます。また、スポーツハラスメントや女性アスリート特有の疾病等の相談ができる女性のスポーツ相談窓口について、さまざまな媒体を活用して周知を図ります。

【数値目標】

スポーツ実施率	成人の週1回以上のスポーツ実施率	⇒ 60% (R6: 57.4%)
	週3回以上のスポーツ実施率	⇒ 30% (R6: 25.0%)
	子ども(小学生)のスポーツ実施率	⇒ 60% (R6: 48.8%)
スポーツ行事への参加者数		⇒ 38,000人 (R6: 36,038人)

基本目標Ⅱ 感動と活力に満ちた競技スポーツ

全国（世界）レベルで活躍できる選手を継続的に輩出することにより、感動と活力に満ちた競技スポーツの推進を目指します。

〈現状と課題〉

少子高齢化が進み、競技者としてスポーツに取り組む選手が減少しています。そのような中、全国に通用するトップアスリートを輩出するために、市スポーツ協会加盟団体の活動を支援するとともに、中学校や高等学校におけるスポーツ環境の整備及び選手の育成強化を推進することが必要となっています。

本市では、トップアスリートを含めた若者の県外への流出や、現役アスリートが引退後に県内に戻ってくるための環境が十分でないことなどが課題となっていることから、関係団体と連携して、引退後も競技に関わり続けられるよう、トップアスリートのサポート体制の整備に向けた取組みが必要です。

また、指導者の養成・資質の向上については、指導者や団体役員の高齢化や人口減少に伴う人材不足が深刻な問題となっています。全国（世界）レベルで活躍するトップアスリートを育成できる高度な専門的知識と高い指導力を培うためには、研修会の充実が必要であり、併せて次代を担う若手指導者の育成・確保が喫緊の課題となっています。

◆推進項目

Ⅱ－（１）トップアスリートの育成・強化の推進

各スポーツ団体や市スポーツ協会加盟団体等と連携し、トップアスリートと指導者の育成・強化を推進していきます。全国（世界）レベルで活躍する地元選手を育成することで、市民へ感動と活力を届け、市民のスポーツへの興味関心を高めていきます。

○施策

①ジュニア期における一貫した指導体制に基づく育成・強化

全国（世界）レベルで活躍する選手の継続的な輩出に向けて、市スポーツ協会加盟団体等と連携し、地元指導者の手によるジュニア選手の一貫した指導体制を構築していきます。

②全国大会等への出場に向けた戦略的支援の充実・強化

市スポーツ協会から加盟団体へ効果的に強化費を交付することにより、全国大会等での活躍に向け、有望な選手及び競技団体を支援していきます。また、全国大会等での活躍を目指し、本市の得意競技等の強化に加え、新たに上位入賞可能な競技を見出すな

ど効果的な強化を図り、競技力の向上に努めます。

国内のジュニア世代の日本代表選手等との強化練習会や交流試合の実施に努めるとともに、国内の優秀な指導者を招へいし、ジュニア期の選手への指導及び指導者との交流を図ります。

◆推進項目

Ⅱ－（２）競技スポーツに対する推進体制の充実

トップアスリートが全国（世界）の舞台で活躍できるように、医・科学的トレーニング等のサポート体制を充実させていくとともに、競技団体や関係機関等との連携を密にして、トップアスリートの活動を支える競技スポーツに対する推進体制の充実を図っていきます。

○施策

①地元企業、地域密着型プロスポーツチームとの連携

本市をマザータウンとする「アランマーレ^{*17}」や県内プロスポーツチームの「モンテディオ山形^{*18}」と「パスラボ山形ワイヴァンズ^{*19}」等と連携を図り、次世代を担うジュニア選手や若手指導者の育成・確保を図っていきます。

②スポーツ人材の活躍の促進

全国大会等へ出場する市民へ激励金等を交付したり、国際大会や全国大会等で優秀な成績を収めた市民を表彰したりするなど、市民のスポーツへの関心を高めていきます。また、市スポーツ協会等と連携し、指導者研修会の内容を充実させるとともに、研修会への参加を積極的に呼び掛けます。トップアスリートを育成できる高度な専門的知識と高い指導力を持つ指導者を養成・確保することで、競技力の向上と一貫した指導体制の確立を推進していきます。同時に、審判員の資質向上を図ることにより、さらなる競技力向上へつなげていきます。



▲地域に根ざしたスポーツチームの「アランマーレ」



▲「アランマーレ」による小学生選手のバレーボール教室の様子

*17 株式会社プレステージ・インターナショナルが設立した、本市をマザータウンとする女子バレーボールチーム

*18 山形市、天童市、鶴岡市を中心とする山形県全県をホームタウンとする、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟するプロサッカークラブ。

*19 天童市をホームタウンとする、2013年に創設された山形県初の男子プロバスケットボールチーム。

③サポート体制の充実

競技スポーツ選手の効果的なスポーツ活動をサポートするため、スポーツドクターやトレーナー等と連携して、医・科学的トレーニングやメンタル面等のサポート体制の充実を図っていきます。

◆推進項目

Ⅱ－（３）トップレベルのスポーツに触れる機会の創出

トップレベルのスポーツに触れる機会を数多く創出して、競技の普及・競技力の向上を図るとともに、市民の「みる」スポーツへの興味と関心を高めていきます。

○施策

①トップアスリートが参加する全国大会・東北大会等の開催誘致

全国大会・東北大会や実業団大会等を広域的な視点で市スポーツ協会等と連携して計画的に開催誘致し、大会準備や競技運営を通して競技水準の更なる向上に取り組むとともに地域の活性化を推進します。

併せて、大会開催を契機として、各競技の普及・競技力の向上を図るとともに、各競技団体や地域における人材育成やスポーツ環境の整備を図っていきます。

②大会（競技）情報の積極的発信

本市をマザータウンとする「アランマーレ」や県内プロスポーツチームの「モンテディオ山形」と「バスラボ山形ワイヴァンズ」をはじめとするトップレベルの競技を市民が間近で観戦できるよう、市内で開催される大会等の情報について、市公式SNSや市ホームページ、市広報紙「私の街さかた」などを活用しながら積極的に情報発信していきます。

【数値目標】

国民スポーツ大会への出場競技数 ⇒ 20 競技以上（R6：11 競技）

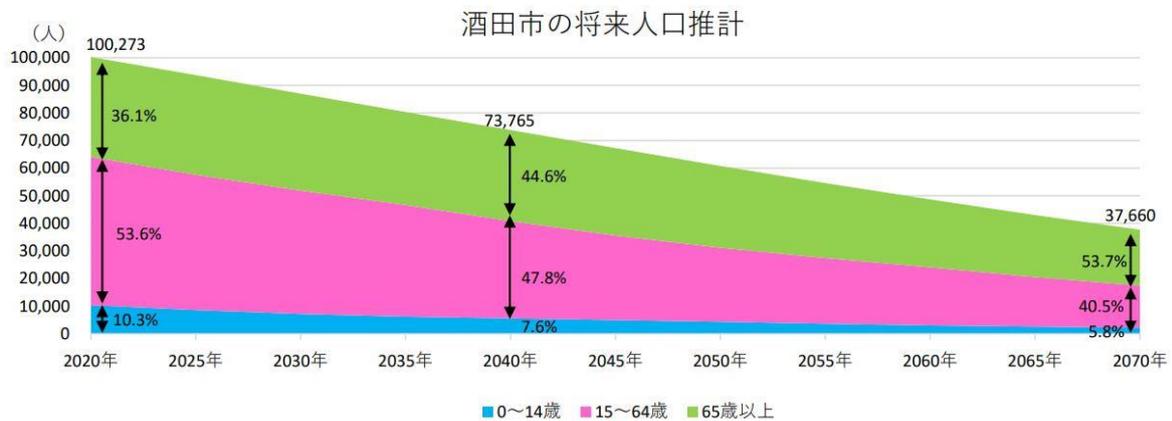
基本目標Ⅲ スポーツによる賑わいとまちづくり

本市には、「湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」など特色のあるスポーツイベントが根付いています。これらのスポーツイベントを通して、スポーツの持つ力を最大限に活かし、大会やイベントの誘致に向けて、本市をマザータウンとする「アランマーレ」や県内プロスポーツチームの「モンテディオ山形」と「パスラボ山形ワイヴァンズ」、山形県スポーツコミッション*20と連携してスポーツによる賑わいとまちづくりを推進します。

《現状と課題》

本市の人口は減少の一途をたどっており、国立社会保障・人口問題研究所推計準拠では、2045年（令和27年）には総人口が67,198人となり、2020年（令和2年）に比べると約30%減少すると推測されています。

まちの賑わい創出のため、スポーツイベントの開催による交流人口の拡大を図り、地域の活性化に繋げることが重要となっています。それらのイベントを支えるスポーツボランティアの育成など、スポーツイベントへの参加意欲を高める必要があります。



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
0～14歳 (人)	10,313	8,525	7,129	6,142	5,571	4,970	4,276	3,571	2,961	2,507	2,183
構成比 (%)	10.3%	9.1%	8.2%	7.6%	7.6%	7.4%	7.0%	6.5%	6.1%	5.8%	5.8%
15～64歳 (人)	53,697	49,044	44,737	40,432	35,235	30,565	26,841	23,827	21,057	18,004	15,234
構成比 (%)	53.6%	52.4%	51.4%	50.3%	47.8%	45.5%	44.2%	43.7%	43.3%	41.9%	40.5%
65歳以上 (人)	36,263	36,106	35,104	33,783	32,959	31,663	29,652	27,162	24,609	22,456	20,243
構成比 (%)	36.1%	38.5%	40.4%	42.1%	44.6%	47.1%	48.8%	49.8%	50.6%	52.3%	53.7%
総人口 (人)	100,273	93,675	86,970	80,357	73,765	67,198	60,769	54,560	48,627	42,967	37,660

資料：国立社会保障・人口問題研究所推計準拠（2020年10月1日現在）

*20 スポーツ大会、合宿、イベント等の誘致や受入支援を行い、スポーツツーリズム等による地域活性化に取り組む組織。

◆推進項目

Ⅲ－（１）スポーツツーリズム^{*21}の推進

本市の多彩な自然環境やスポーツ資源を活かし、スポーツを通じた交流人口の拡大を図るとともに、スポーツによる賑わいとまちづくりを推進します。

○施策

①大規模スポーツイベントの誘致・開催

「湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」をはじめとする市内で開催されるスポーツイベントの参加者に対し、「酒田の魅力」を伝え、スポーツを通じた交流人口の拡大を図ります。また、全国大会や東北大会等の大規模スポーツイベント開催への補助金の交付を引き続き行い、市内での合宿についても利用者のニーズを踏まえながら、競技力の向上や交流人口の拡大の観点から支援の方法を検討します。

②スポーツボランティアの育成・支援

「湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」などをはじめとする市内で開催されるスポーツイベントをサポートするスポーツボランティアの育成・支援を推進していきます。

◆推進項目

Ⅲ－（２）スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生

コミュニティ振興会が主催する運動会などのスポーツイベントを通じ、世代間交流や地域一体感の醸成、災害時にも支え合う地域コミュニティの維持・再生を促します。

○施策

①市民参加型のスポーツイベントの充実

コミュニティ振興会が主催する運動会等の住民参加型のスポーツイベントの実施により、住民のスポーツの習慣化、関係団体や住民間の協力体制の強化、地域の活性が図られるよう支援します。また、「市スポーツフェスティバル」をみんなが参加したいと思える内容に充実させ、市全体のスポーツ機運の醸成と地域の賑わいを創出します。

②トップアスリート等との連携・協力の推進

本市・本県を拠点に活動するトップアスリートやプロスポーツチームなどと連携・協力をさらに強め、市民の運動・スポーツ活動への参加意欲を高め、スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生を図ります。

*21 スポーツの観戦やスポーツイベントへの参加と、開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指す取り組み。

◆推進項目

Ⅲー（３）プロスポーツチーム等との連携

プロスポーツチーム等との連携を通し、スポーツ教室を開催したり、市民応援デーやパブリックビューイング*22などの試合観戦や選手との交流の機会を創出したりすることで、市民に「する」「みる」「ささえる」「しる」スポーツの楽しみを広げるとともに、賑わいのあるまちづくりを推進します。

○施策

①プロスポーツチームによる地域貢献活動の推進

プロスポーツチームによる子ども向けのスポーツ教室や各種イベントを開催することで、トップレベルのスポーツに触れる機会を充実し、スポーツの裾野を広げます。

②ホームゲーム等開催における連携協力

本市を拠点とするプロスポーツチームの練習場所・ホームゲーム開催地として、体育施設を優先的に利用できるよう支援に努めます。また、より多くの市民が試合会場に足を運ぶよう市民応援デーやホームゲーム開催等の広報活動に努めます。

③パブリックビューイング等の開催

プロスポーツチームの観戦機会の創出に向け、ミライニ等でパブリックビューイングを実施し、「みる」スポーツの推進を図るとともに、スポーツの魅力を伝えていきます。

【数値目標】

湊酒田つや姫ハーフマラソン大会における交流人口（市外・県外）

⇒ 1,200人（R6：923人）



▲湊酒田つや姫ハーフマラソン大会でのスタートの様子



▲給水所運営などボランティアスタッフが大会を支える

*22 大型スクリーンやモニターを使って、スポーツの試合やイベントなどを大勢で観戦・観覧するイベントのこと。

基本目標Ⅳ 安全安心なスポーツ活動のための環境整備

市民が気軽に安全安心にスポーツ活動を行うとともに、競技力の向上や大会誘致等による交流人口の拡大を図っていくため、市民ニーズに応じた施設の改修・整備を検討します。

また、市民が年間を通して運動・スポーツを行うことができるよう、当面利用の見込みがない閉校した学校体育施設等を含めて更なる有効活用を検討します。

《現状と課題》

人口減少による施設利用者の減少が見込まれることから、適正な施設配置を考慮する必要があります。財政状況が厳しい中にありますが、施設の老朽化が進んだものや耐震補強工事未実施のものもあり、安全で快適なスポーツ環境を提供するため、施設の統廃合及び集約化も視野に入れ、適正な管理と計画的な改修を行う必要があります。

施設の工事の実施にあたっては利用制限に伴う代替施設の提案、利用者への事前の周知のほか、大会等を実施する団体への案内が必要となります。

老朽化した施設の改修は、大規模工事となる場合が多く、特定財源の確保が課題であるため、体育施設の内外等における広告料（ネーミングライツ）収入等の確保について検討する必要があります。

◆推進項目

Ⅳ－（１）体育施設の整備等

競技力向上や大会誘致等による交流人口の拡大を図るため、体育施設の適正な配置の検討、指定管理者制度^{*23}を運用した効率的な体育施設の運営を推進します。

○施策

①体育施設の適正な配置

適正な配置に向けた施設の統廃合及び集約化を視野に入れ、「酒田市公共施設等総合管理計画」に基づく「酒田市体育施設整備方針」により、市民ニーズを反映させ、また、長寿命化を図りながら中長期的な視点から計画的な施設の改修・整備を検討します。

②体育施設の効率的な運営と管理

体育施設の管理運営に民間のノウハウ等を活用する指定管理者制度を継続運用し、指定管理施設の拡大も視野に入れ、市民サービスの向上と行政コストの縮減を図るな

^{*23} 地方公共団体が所管する公の施設の管理・運営を、民間事業者等に委託することで、民間等のノウハウを導入し、管理・運営の効率化を目指すもの。

ど効率的な体育施設の運営に取り組みます。

また、施設使用料については適正な受益者負担^{*24}を求め、持続可能な施設運営に努めるとともに、適切な管理を行います。

③体育施設の改修・整備

施設利用者の安全確保のため、耐震化を早急に進めるとともに、年齢や性別、障がいの有無に関わらず、スポーツに親しむことができるよう、洋式トイレへの改修などバリアフリー^{*25}やユニバーサルデザインに配慮した施設の改修・整備に努めます。

◆推進項目

Ⅳ－（２）体育施設の利用促進

市民が運動・スポーツを行うことができるよう、身近な生活圏にある学校体育施設（体育館やグラウンド等）の活用について検討します。

○施策

①学校体育施設開放事業の充実

地域のスポーツ団体の活動を推進するため、学校と連携を図りながら利用方法の見直しを含め、運営の手法を検討し、小中学校体育施設の開放事業の充実を図ります。

②年間を通してスポーツができる環境づくり

市民が年間を通して運動・スポーツを行うことができるよう、コミュニティセンターや大学施設等の活用について施設管理者と協議しながら身近で運動・スポーツのできる場の確保に努めます。また、身近な運動・スポーツを行うことができる場所の情報提供・発信を積極的に推進します。

③体育施設の管理と利便性の向上

市民がより使いやすい体育施設を目指して、予約管理システムの運用を見直し、コード決済や施設予約の抽選機能等、新たな体育施設予約管理システムの導入を進めます。

◆推進項目

Ⅳ－（３）スポーツを楽しむ環境整備

楽しんでスポーツ活動を行えるよう、安全なスポーツ環境を整え、スポーツによって生じる事故・傷害等の防止や軽減を図っていきます。

*24 特定の公共事業に必要な経費にあてるため、その事業によって特別の利益を受ける者に経費の一部を負担させること。

*25 すべての人が自由に行動し、社会参加をする上で妨げとなる物理的、制度的、社会的及び心理的な様々な障壁を作らないこと及び取り除くこと。

○施策

①スポーツにおける安全・安心の確保

スポーツ活動を行う上でけがをしないための身体づくりの重要性が叫ばれています。指導者や審判員が身体づくりの大切さを学ぶことによって、安全にスポーツ活動を行うとともに、競技中のけがを未然に防ぐ研修会や講習会を開催します。

また、指導者やクラブマネージャー^{*26}、施設管理者等を対象として、スポーツドクター^{*27}と連携して、スポーツによって生じる事故・障害等に関わる最新のスポーツ医・科学的な知見を学習するための研修会を実施します。

施設管理のうえでは、落雷などの自然災害やクマなどの有害鳥獣被害について、利用者の安全を最優先とした対策を講じます。各競技団体が大会や活動を行う際は、運営マニュアル等に対策を盛り込んでもらい、安全・安心な運営に向けて、施設管理者と各競技団体が連携を図りながら対策に努めます。

②スポーツインテグリティ^{*28}（誠実性、健全性、高潔性）の確保

施設内の清掃・消毒を定期的実施し、清潔な環境を維持します。近年課題となっている夏場の熱中症対策として、施設内での注意喚起、熱中症指数計の定期計測、熱中症対策のための施設利用キャンセルの無料化など、具体的な予防策を講じます。また、子どもが利用する施設での望まない受動喫煙防止のため、敷地内禁煙の徹底など、より健全な環境づくりに努めます。

【数値目標】

スポーツ施設の利用者数 ⇒770,000 人（R6：564,651 人）



▲LED 照明で明るさが確保された国体記念体育館



▲人工芝化した光ヶ丘野球場

*26 スポーツクラブの財務状況や会員数、活動状況等、クラブ全体について把握し、マネジメントを行う人。

*27 スポーツを主な原因とする傷害や疾病の診断・治療にあたる専門の医師。

*28 ドーピング、八百長、ハラスメント、差別、ガバナンスの欠如といった様々な「脅威」からスポーツを保護し、スポーツの本来の価値を守る取り組み。

第4章 計画の推進・進捗管理

1 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、現在、市教育委員会を中心にスポーツ施策に取り組んでいますが、スポーツ施策が多様化してきていることから、行政組織内で横断的に施策の推進調整を行います。

市スポーツ協会を軸とした各競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等、それぞれの特色を活かした活動を展開します。

併せて、地域に密着した地区体育・スポーツ振興会、市スポーツ推進委員会、市スポーツボランティア会等の協力により地域のスポーツ活動をさらに推進します。

市教育委員会及び地域・スポーツ団体は、それぞれの役割を果たしながら、連携協力しながら取り組みを進めます。

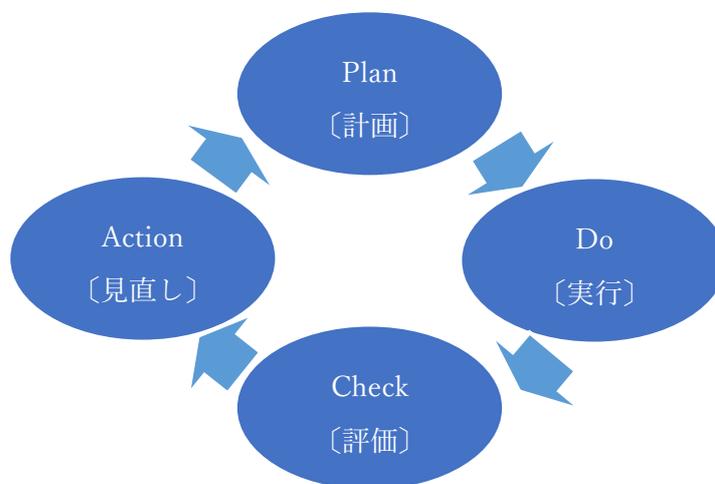
本計画の進捗管理については、推進項目ごとに数値目標を設定し年次ごとに進捗管理を行い、市スポーツ推進審議会へ計画の進捗状況の報告を行います。

また、計画内容の見直しにあたっては、社会情勢やスポーツ界の変化等を踏まえ、着実かつ効果的な改善方策を検討することとします。

2 計画の進捗管理

本計画は、計画の進捗状況、社会経済情勢、国の政策動向等の変化に対応するため、必要に応じて見直しを行います。

また、本計画の目標の実現に向けて、PDCA サイクル^{*29}を導入し、市スポーツ推進審議会に諮りながら、必要に応じて具体的な取り組み内容や予算の見直し等、計画の進捗管理を行います。



*29 Plan(計画)－Do(実行)－Check(評価)－Action(見直し)を順に実施する管理手法。

1 計画の中間見直し経過及び酒田市スポーツ推進審議会委員名簿

酒田市スポーツ推進計画 中間見直し経過

年月日	会議等	内容
令和7年6月25日	スポーツ推進審議会	基本方針、推進項目見直しの検討
令和7年9月	各スポーツ関係団体	中間見直し案を送付して意見を求める
令和7年11月5日	スポーツ推進審議会	中間見直し案の検討
令和7年11月25日	教育委員会勉強会	中間見直し案（概要版）を説明
令和7年12月1日	市議会（総務常任委員協議会）	中間見直し案（概要版）を報告
令和7年12月5日	パブリックコメント	市民等からの意見公募（～12月24日）
令和8年1月20日	教育委員会協議会	中間見直し案の検討
令和8年1月29日	スポーツ推進審議会	中間見直し案についての最終審議
令和8年2月13日	教育委員会	議決
令和8年2月16日	市議会（総務常任委員協議会）	報告

酒田市スポーツ推進審議会委員名簿

(順不同、敬称省略)

役職名	氏名	所属団体等
会長	中 條 庸 右	酒田市スポーツ振興会
副会長	齋 藤 隆	(公財)酒田市スポーツ協会
委員	堀 俊 一	酒田市スポーツ推進委員会
	齋 藤 勉	酒田市スポーツ少年団本部
	三 浦 修 一	酒田市中学校長会
	小 林 伸	酒田市小学校長会
	大 滝 美 樹	酒田地区私立幼稚園・認定こども園連合会
	穂 積 祥	酒田市総合型地域スポーツクラブ情報交換会
	佐 藤 寿実子	(株)プレステージ・コアソリューション 山形BPOパーク
伊 藤 真 実	酒田商工会議所 青年部 事務局	

(令和8年2月現在)

2 アンケート結果

①令和6年度 酒田市のスポーツ推進に関する市民アンケート調査

【目的】

酒田市スポーツ推進計画の策定からおおよそ6年が経過した。計画に掲げた施策について現時点での進捗状況を把握し、評価指標や数値目標に照らしながら検証・評価を行い、今後の施策展開へ繋げるために実施。

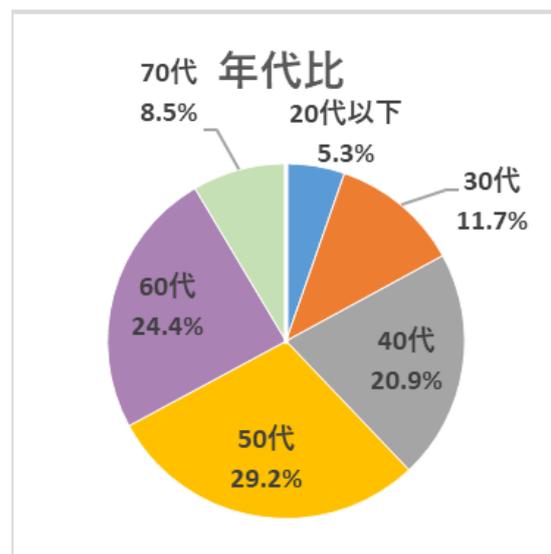
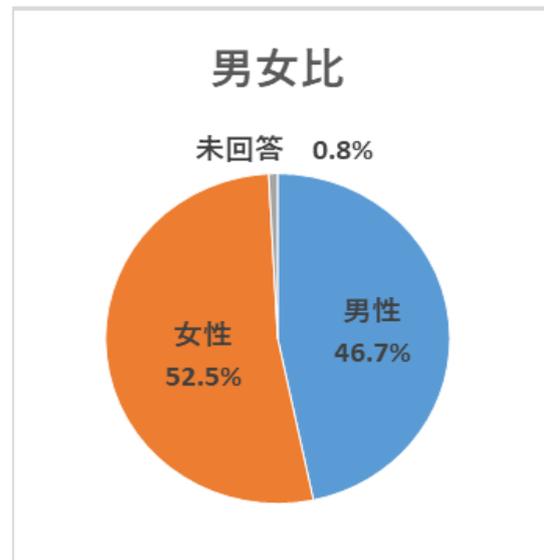
【対象】 市内満18歳以上の市民

【調査実施期間】 令和7年1月30日～2月28日

【調査方法】 オンラインのみ（市広報、公式ラインにて周知）

【回収数】 716件

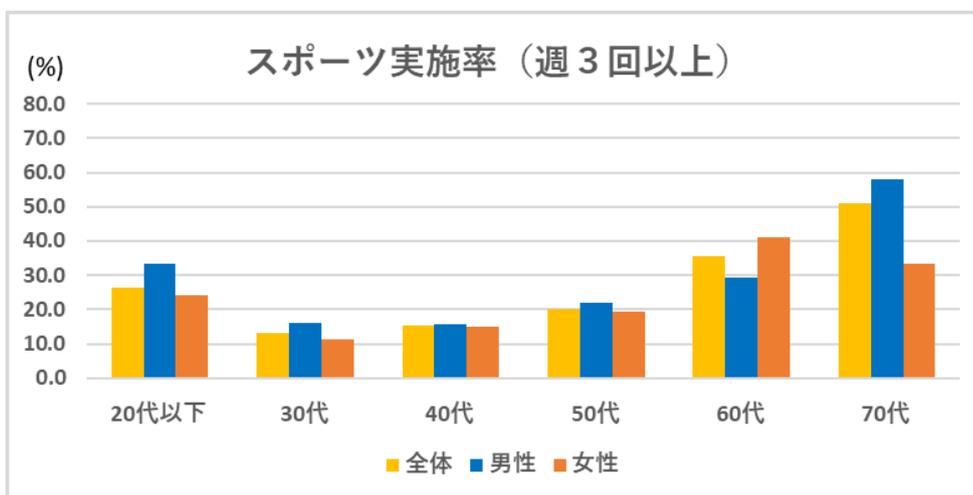
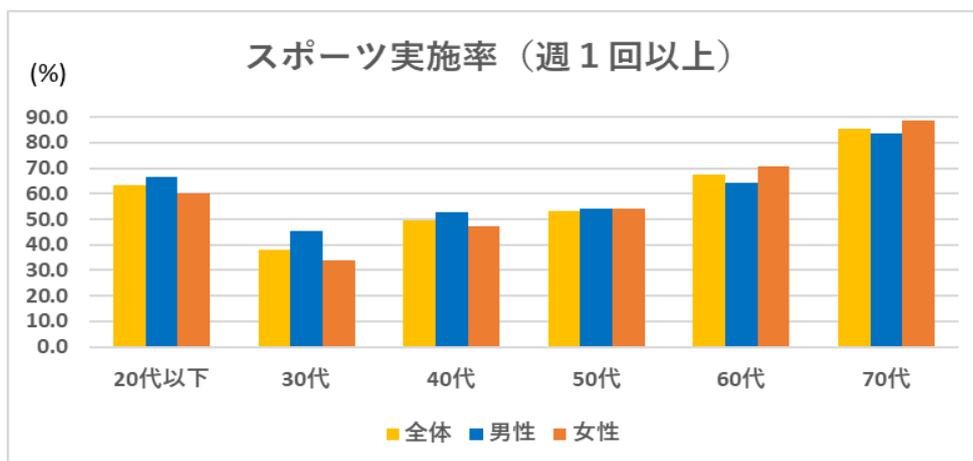
○標本の属性		件数	%
全体		716	100.0
性別	男性	334	46.7
	女性	376	52.5
	未回答	6	0.8
年代	20代以下	38	5.3
	30代	84	11.7
	40代	150	20.9
	50代	208	29.2
	60代	175	24.4
	70代	61	8.5
	未回答	0	0.0
性年代	男性20代以下	12	1.7
	男性30代	31	4.3
	男性40代	57	8.0
	男性50代	96	13.4
	男性60代	95	13.3
	男性70代	43	6.0
	女性20代以下	25	3.5
	女性30代	53	7.4
	女性40代	93	13.0
	女性50代	109	15.2
	女性60代	78	10.9
	女性70代	18	2.5
	未回答	6	0.8



○スポーツ実施率について

- ・週1回以上のスポーツ実施率は 57.4% (前年度 57.8%) [0.4ポイント減]。30代女性の割合が約3割で全ての年代の中で一番低い。70代女性の割合が9割弱で全ての年代の中で一番高い。
- ・週3回以上のスポーツ実施率は 25.0% (前年度 29.2%) [4.2ポイント減]。週1回以上のスポーツ実施率と同じく、30代女性の割合が約1割で全ての年代の中で一番低い。
- ・全体的に男性よりも女性のスポーツ実施率が低くなっている。

年代別スポーツ実施率 週1回以上 (%)					年代別スポーツ実施率 週3回以上 (%)				
n=716	全体	男性	女性	性別不明	n=716	全体	男性	女性	性別不明
20代以下	63.2	66.7	60.0	100.0	20代以下	26.3	33.3	24.0	0.0
30代	38.1	45.2	34.0	0.0	30代	13.1	16.1	11.3	0.0
40代	49.3	52.6	47.3	0.0	40代	15.3	15.8	15.1	0.0
50代	53.4	54.2	54.1	0.0	50代	20.2	21.9	19.3	0.0
60代	67.4	64.2	70.5	0.0	60代	35.4	29.5	41.0	100.0
70代	85.2	83.7	88.9	0.0	70代	50.8	58.1	33.3	0.0
全年代平均	57.4	60.2	55.1	50.0	全年代平均	25.0	27.5	22.6	33.3
令和5年度平均	57.8	66.2	51.5	27.8	令和5年度平均	29.2	35.9	23.9	11.1



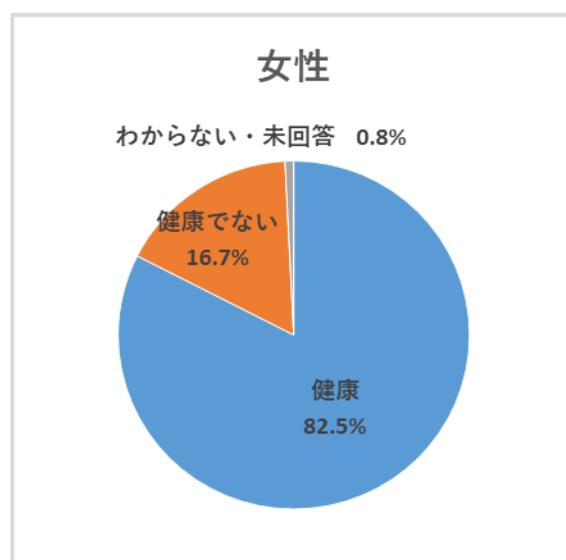
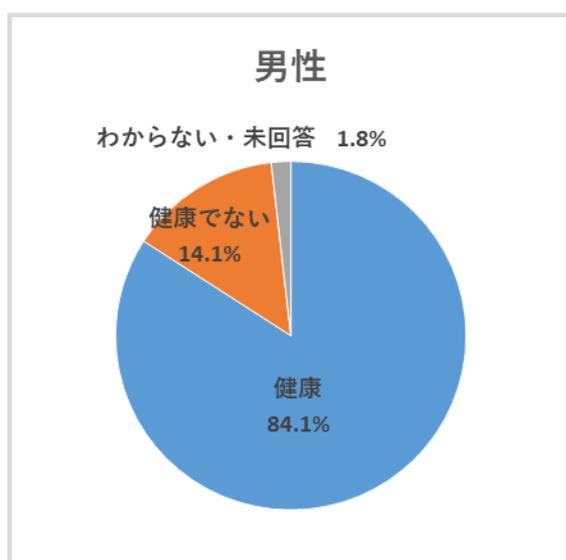
○健康について

- ・自身を「健康」（「①」＋「②」）とする割合は 83.3%（前年度 81.9%）[1.4 ポイント増]。
- ・自身を「健康でない」（「③」＋「④」）とする割合は 15.5%（前年度 17.5%）[2.0 ポイント減]。

あなたは、このところ健康だと思いますか。（年齢不明または性別不明は除く）

(%)

n=710		健康 ①	どちらかといえば 健康②	①+②	どちらかといえば 健康ではない③	健康でない ④	③+④	わからない 未回答⑤
性別	男性	33.8	50.3	84.1	11.7	2.4	14.1	1.8
	女性	27.7	54.8	82.5	12.2	4.5	16.7	0.8
男性	男性20代以下	50.0	33.3	83.3	8.4	8.3	16.7	0.0
	男性30代	19.4	41.9	61.3	35.5	3.2	38.7	0.0
	男性40代	22.8	59.6	82.4	10.5	1.8	12.3	5.3
	男性50代	42.7	43.8	86.5	9.4	2.1	11.5	2.1
	男性60代	32.6	55.8	88.4	9.5	2.1	11.6	0.0
	男性70代	37.2	51.2	88.4	7.0	2.3	9.3	2.3
女性	女性20代以下	36.0	44.0	80.0	12.0	8.0	20.0	0.0
	女性30代	34.0	49.1	83.1	15.1	1.9	17.0	0.0
	女性40代	25.8	53.8	79.6	12.9	7.5	20.4	0.0
	女性50代	24.8	62.4	87.2	10.1	1.8	11.9	0.9
	女性60代	25.6	55.1	80.7	11.6	5.1	16.7	2.6
	女性70代	33.3	44.4	77.7	16.7	5.6	22.3	0.0
全体		30.6	52.7	83.3	12.0	3.5	15.5	1.2
令和5年度		33.0	48.9	81.9	12.6	4.9	17.5	0.6



○運動不足について

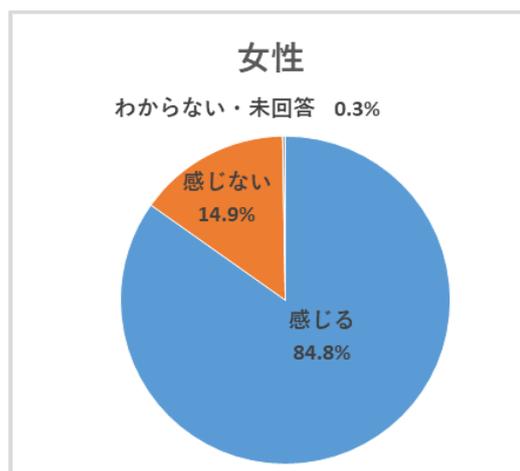
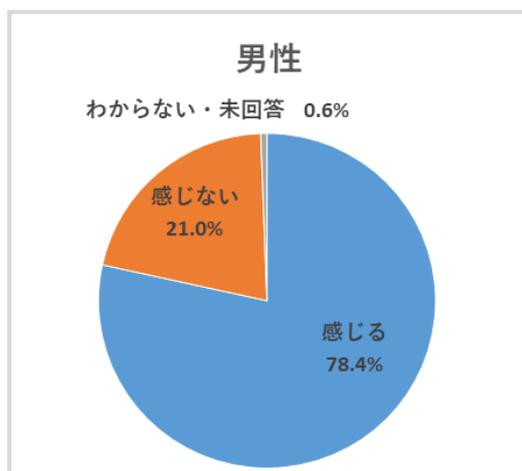
- ・運動不足を「感じる」(「①」 + 「②」) とする割合は 81.9% (前年度 74.1%) [7.8 ポイント増]。女性の割合の方が高く、男女ともに 30 代が最も高い。
- ・運動不足を「感じない」(「③」 + 「④」) とする割合は 17.7% (前年度 23.6%) [5.9 ポイント減]。
- ・直近 1 年の運動頻度が低くなるにつれて、運動不足を「大いに感じる」とする割合が高くなっている。

あなたは、普段、運動不足を感じますか。(年齢不明または性別不明は除く) (%)

n=710		大いに感じる①	ある程度感じる②	①+②	あまり感じない③	ほとんど感じない④	③+④	わからない未回答⑤
性別	男性	35.6	42.8	78.4	13.5	7.5	21.0	0.6
	女性	47.6	37.2	84.8	9.8	5.1	14.9	0.3
男性年代	男性20代以下	25.0	33.3	58.3	25.0	8.3	33.3	8.4
	男性30代	35.5	51.6	87.1	9.7	3.2	12.9	0.0
	男性40代	45.6	31.6	77.2	10.5	10.5	21.0	1.8
	男性50代	40.6	35.4	76.0	17.7	6.3	24.0	0.0
	男性60代	28.4	55.8	84.2	8.4	7.4	15.8	0.0
	男性70代	30.2	41.9	72.1	18.6	9.3	27.9	0.0
女性年代	女性20代以下	36.0	40.0	76.0	8.0	16.0	24.0	0.0
	女性30代	62.3	32.0	94.3	5.7	0.0	5.7	0.0
	女性40代	63.4	23.7	87.1	8.6	4.3	12.9	0.0
	女性50代	52.3	34.9	87.2	6.4	6.4	12.8	0.0
	女性60代	23.1	55.1	78.2	16.7	3.8	20.5	1.3
女性70代	16.7	55.5	72.2	22.2	5.6	27.8	0.0	
全体		42.0	39.9	81.9	11.5	6.2	17.7	0.4
令和5年度		36.6	37.5	74.1	15.4	8.2	23.6	2.3

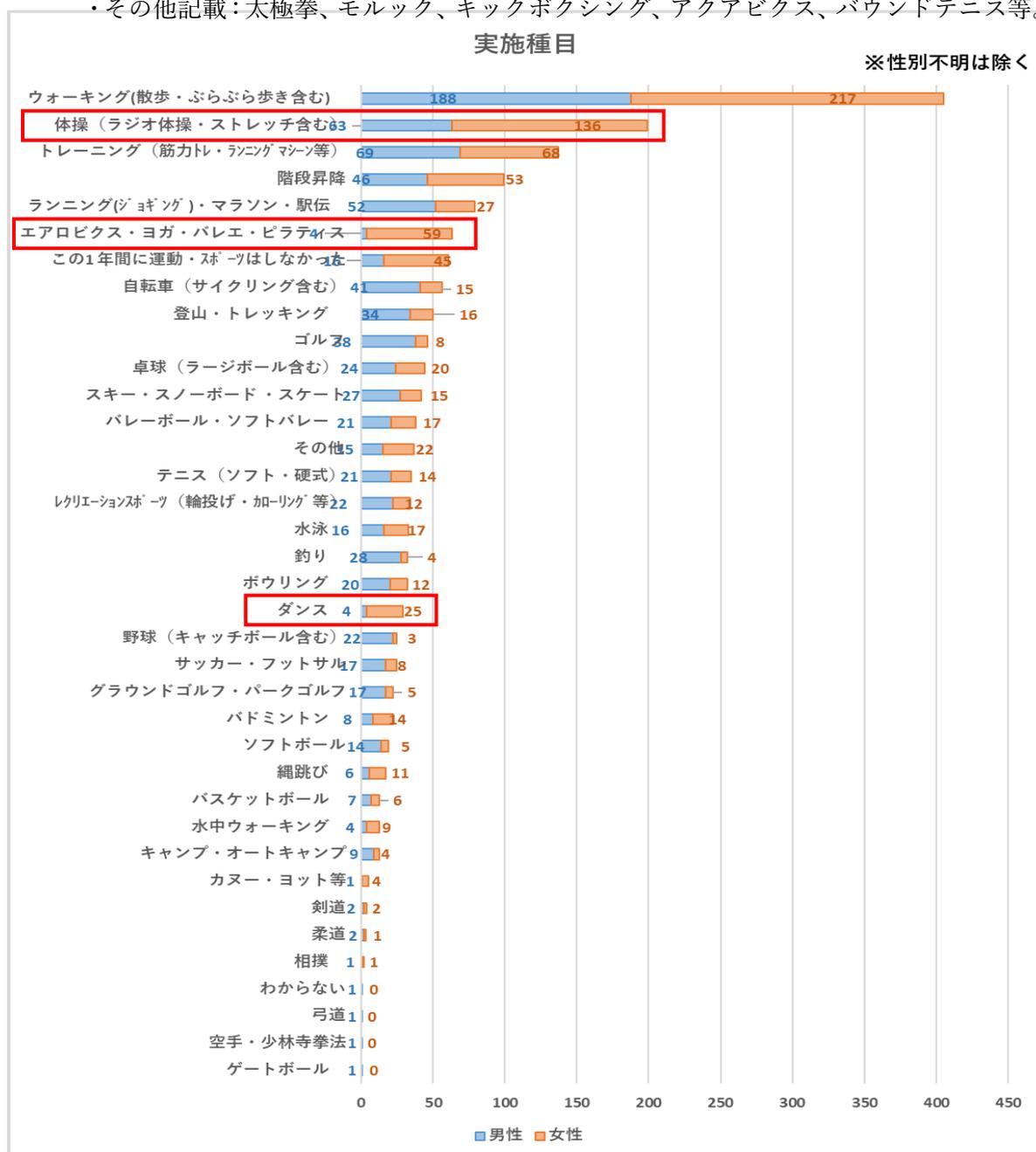
(%)

n=634		大いに感じる①	ある程度感じる②	①+②	あまり感じない③	ほとんど感じない④	③+④	わからない未回答⑤
直近1年の運動頻度	週5回以上	11.1	47.6	58.7	27.0	12.7	39.7	1.6
	週3回以上	20.7	42.2	62.9	17.2	19.0	36.2	0.9
	週2回以上	31.3	47.0	78.3	16.5	5.2	21.7	0.0
	週1回以上	35.9	49.6	85.5	11.1	3.4	14.5	0.0
	月に1~3回	57.3	38.7	96.0	3.2	0.8	4.0	0.0
	3か月に1~2回	68.0	28.0	96.0	4.0	0.0	4.0	0.0
	年に1~3回	65.3	24.5	89.8	10.2	0.0	10.2	0.0



○この1年間に実施した種目について

- ・「ウォーキング（散歩・ぶらぶら歩き含む）」が最も多く、「体操（ラジオ体操・ストレッチ含む）」「トレーニング（筋力トレ・ランニングマシン等）」と続いている。
- ・男性に比べて女性の実施割合が高い種目は「体操（ラジオ体操・ストレッチ含む）」「エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス」「ダンス」となっている。
- ・実施人数の多い運動の特徴としては、運動する場所が限定されない（自宅でも実施可能）、道具不要、一人でも実施可能という点が挙げられる。反対に、実施人数の少ない運動の特徴としては、特定の場所（コート）が必要、道具が必要、人数が必要なチームスポーツという点が挙げられる。
- ・その他記載：太極拳、モルック、キックボクシング、アクアビクス、バウンドテニス等。

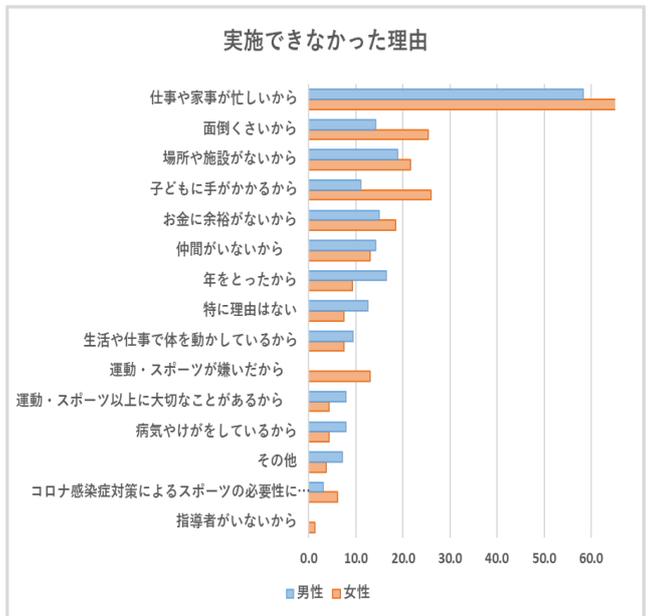


○この1年間で週に1日以上運動・スポーツを実施できなかった理由について

・「仕事や家事で忙しいから」が6割以上と最も多く、「面倒くさいから」「場所や施設がない」と続いている。その他記載：天候が悪い、持病等。

運動やスポーツを実施できなかった理由（複数回答）（%）

n=289	全体	男性	女性
仕事や家事が忙しいから	63.7	58.3	67.9
面倒くさいから	20.4	14.2	25.3
場所や施設がないから	20.4	18.9	21.6
子どもに手がかかるから	19.4	11.0	25.9
お金に余裕がないから	17.0	15.0	18.5
仲間がいないから	13.5	14.2	13.0
年をとったから	12.5	16.5	9.3
特に理由はない	9.7	12.6	7.4
生活や仕事で体を動かしているから	8.3	9.4	7.4
運動・スポーツが嫌いだから	7.3	0.0	13.0
運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	5.9	7.9	4.3
病气やけがをしているから	5.9	7.9	4.3
その他	5.2	7.1	3.7
コロナ感染症対策によるスポーツの必要性に対する意識の変化	4.8	3.1	6.2
指導者がいないから	0.7	0.0	1.2

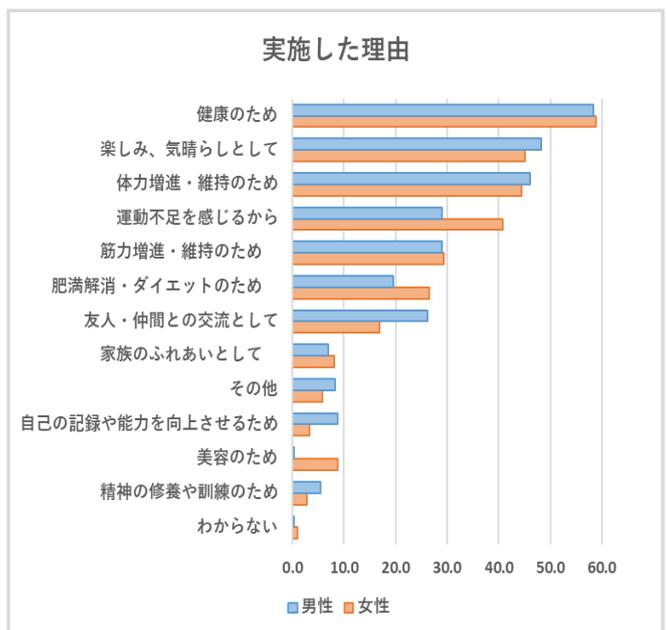


○この1年間で運動・スポーツを実施した理由について

・「健康のため」が最も多く、「楽しみ、気晴らしとして」「体力増進・維持のため」と続いている。その他記載：ペットの散歩、マラソン大会に参加した、ウォーキングイベントに参加した等。

運動やスポーツを実施した理由（複数回答）（%）

n=648	全体	男性	女性
健康のため	58.6	58.4	58.9
楽しみ、気晴らしとして	46.6	48.3	45.0
体力増進・維持のため	45.2	46.1	44.4
運動不足を感じるから	35.0	29.0	40.8
筋力増進・維持のため	29.2	29.0	29.3
肥満解消・ダイエットのため	23.1	19.6	26.6
友人・仲間との交流として	21.5	26.2	16.9
家族のふれあいとして	7.6	6.9	8.2
その他	6.9	8.2	5.7
自己の記録や能力を向上させるため	6.0	8.8	3.3
美容のため	4.6	0.3	8.8
精神の修養や訓練のため	4.0	5.4	2.7
わからない	0.6	0.3	0.9



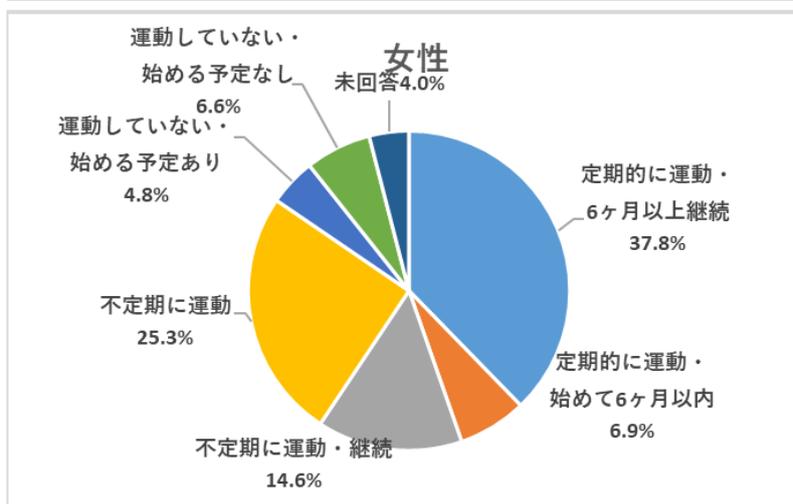
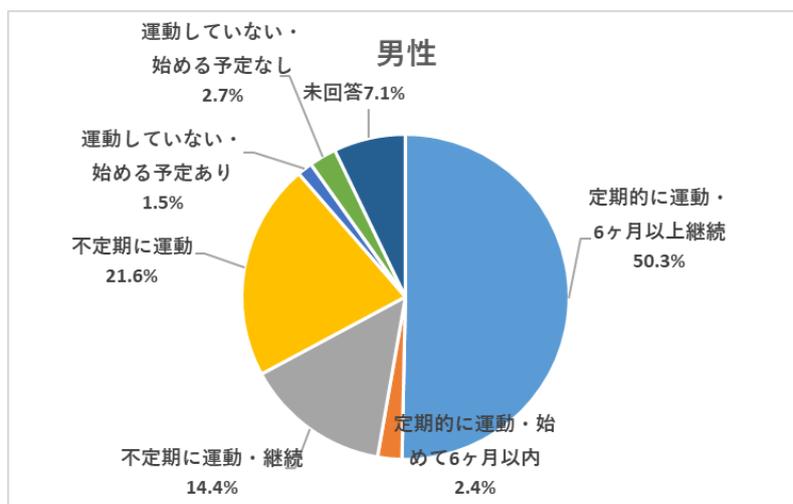
○運動・スポーツの実施状況と今後の予定について

- ・不定期実施を含め、運動・スポーツを実施している割合（関心層）は86.5%。男性の割合の方が高く、特に「定期的に運動・スポーツを実施しており、6ヶ月以上継続している」割合に男女差が見られた。
- ・「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりはない」と答えた割合（無関心層）は4.8%（前年度3.7%）[1.1ポイント増]。
- ・無関心層の割合は女性の方が高い。

運動・スポーツについて、実施状況と今後の予定について教えてください。（性別不明は除く） (%)

n=710

	全体	男性	女性
定期的に運動・スポーツを実施しており、6ヶ月以上継続している	43.7	50.3	37.8
定期的に運動・スポーツを実施しているが、初めてから6ヶ月以内である	4.8	2.4	6.9
定期的ではないが、ある特定の時期に継続して実施した	14.5	14.4	14.6
不定期で実施した	23.5	21.6	25.3
現在運動・スポーツを実施していないが、6ヶ月以内に始めようと思っている	3.2	1.5	4.8
現在運動・スポーツを実施しておらず、今後もするつもりもない	4.8	2.7	6.6
未回答	5.5	7.1	4.0



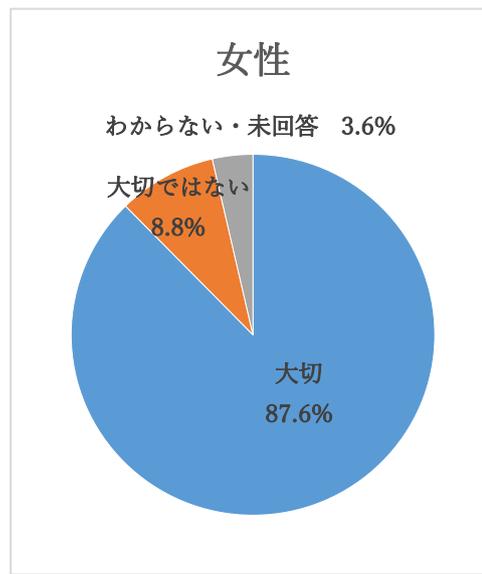
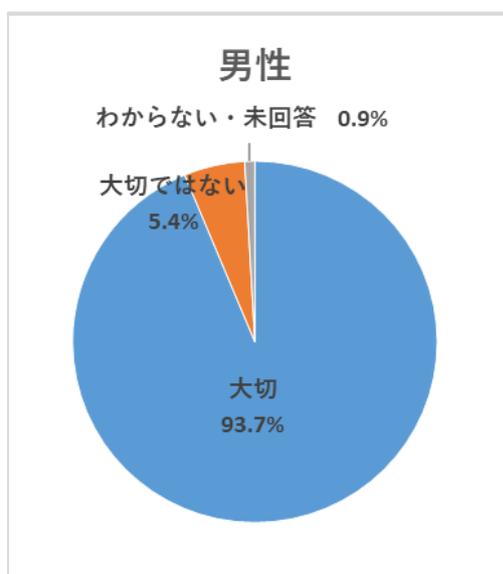
○運動・スポーツの大切さについて

- ・運動・スポーツを「大切」「まあ大切」（「①」＋「②」）と答えた割合は 90.6%（前年度 92.0%）[1.4 ポイント減]。女性の割合の方が若干低くなっている。
- ・「あまり大切ではない」「大切ではない」（「③」＋「④」）と答えた割合は 7.2%（前年度 6.3%）[0.9 ポイント増]。
- ・運動・スポーツは大切と答えた人の方がスポーツ実施率が高い傾向にある。

あなたにとって運動・スポーツは大切なものですか。（年齢不明または性別不明は除く）

(%)

n=710		大切 ①	まあ大切 ②	①+②	あまり大切 ではない③	大切では ない④	③+④	わからない 未回答⑤
全体		59.3	31.3	90.6	5.2	2.0	7.2	2.2
性別	男性	67.1	26.6	93.7	4.5	0.9	5.4	0.9
	女性	52.4	35.4	87.8	5.9	2.9	8.8	3.6
男性年代	男性20代以下	83.3	16.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性30代	51.6	41.9	93.5	3.3	3.2	6.5	0.0
	男性40代	56.1	31.6	87.7	8.8	1.7	10.5	1.8
	男性50代	75.0	18.8	93.8	4.2	1.0	5.2	1.0
	男性60代	58.9	35.8	94.7	4.2	0.0	4.2	1.1
	男性70代	88.4	9.3	97.7	2.3	0.0	2.3	0.0
女性年代	女性20代以下	52.0	36.0	88.0	8.0	0.0	8.0	4.0
	女性30代	41.5	45.3	86.8	3.8	3.7	7.5	5.7
	女性40代	47.3	34.4	81.7	10.8	6.4	17.2	1.1
	女性50代	53.2	37.6	90.8	3.7	0.9	4.6	4.6
	女性60代	61.5	27.0	88.5	5.1	2.6	7.7	3.8
スポーツ実施率	週1回以上	73.2	22.9		2.2	0.7		1.0
	週3回以上	77.1	20.7		1.1	0.6		0.5



②令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【目的】

- ・国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・各教育委員会が自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

【対象】 市内小学5年生・中学2年生

【調査実施期間】 令和6年4月～7月

【調査方法】 学校を通じて体力テストと運動習慣に関するアンケートを調査

【回答数】 小学5年生：666名、中学2年生：682名

○標本の属性

【小学生】

性別	人数	割合
男	332	49.8%
女	334	50.2%
合計	666	100.0%

【中学生】

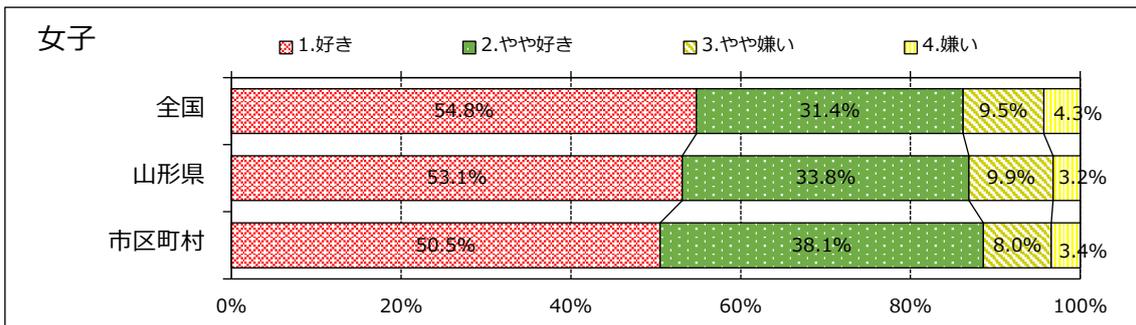
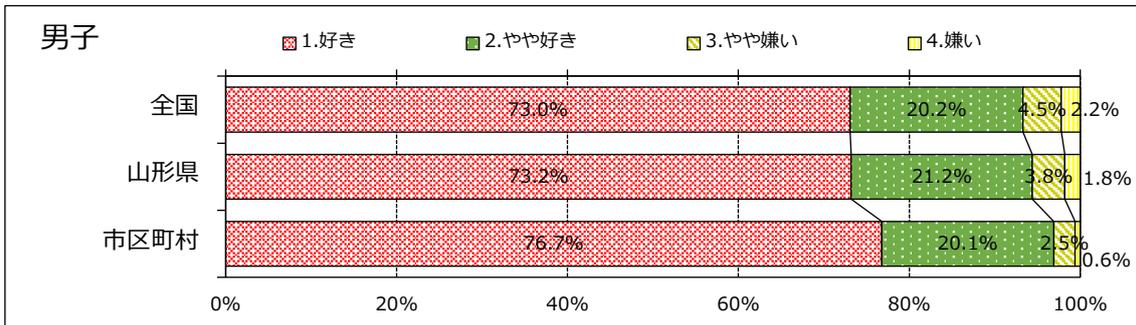
性別	人数	割合
男	341	50.0%
女	341	50.0%
合計	682	100.0%

○運動・スポーツの好き嫌い

【小学生】 n=644

- ・「運動・スポーツが好き」という児童の割合は **63.2%**
- ・男女別で見ると、「好き」の割合は男子が女子より 26.2 ポイント高い。また、「嫌い」の割合は女子が男子より 2.8 ポイント高い。
- ・「好き」に係る全国の数値と本市の数値を比較すると、男子の割合は 3.7 ポイント高く、女子の割合は 4.3 ポイント低くなっている。女子については、「好き」に「やや好き」を含めると全国を上回る。

	合計	
	人数	割合
1 好き	407	63.2%
2 やや好き	187	29.0%
3 やや嫌い	34	5.3%
4 嫌い	13	2.0%
5 未回答	3	0.5%

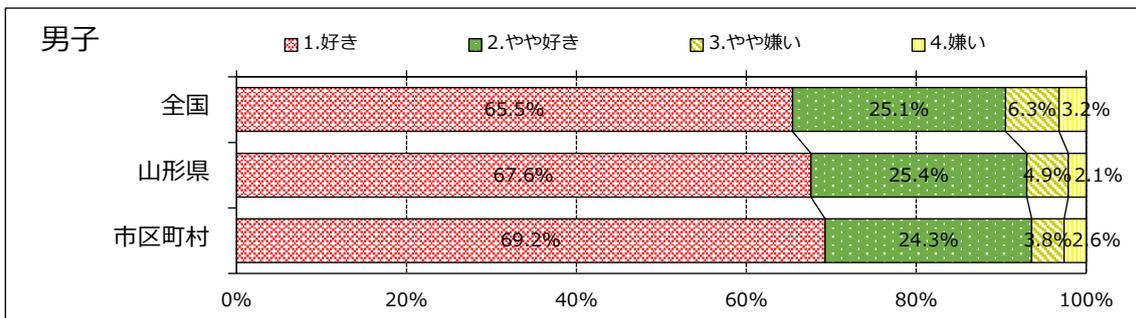


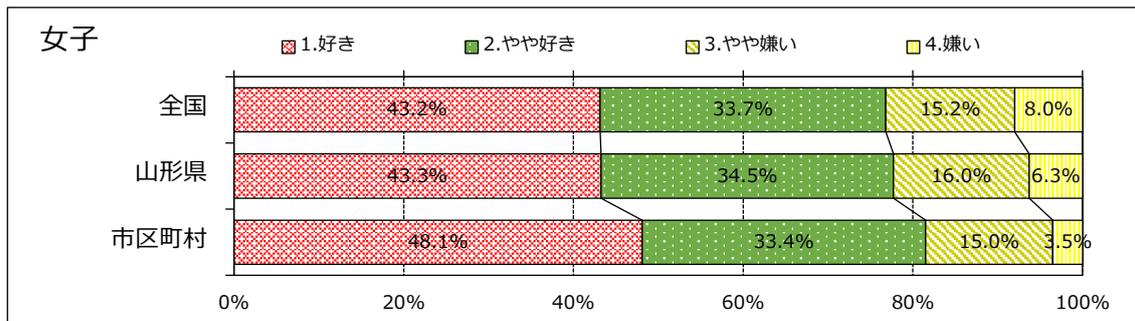
【中学生】 n=682

- ・「運動・スポーツが好き」という生徒の割合は **58.6%**
- ・男女別で見ると、「好き」の割合は男子が女子より 21.1 ポイント高くなっている。また、「嫌い」の割合は女子が男子より 0.9 ポイント高くなっている。
- ・「好き」に係る全国の数値と本市の数値を比較すると、

男子の割合は 3.7 ポイント、女子の割合は 4.9 ポイント高くなっている。

	合計	
	人数	割合
1 好き	400	58.6%
2 やや好き	197	28.9%
3 やや嫌い	64	9.4%
4 嫌い	21	3.1%
5 未回答	0	0.0%





【小中学生比較】

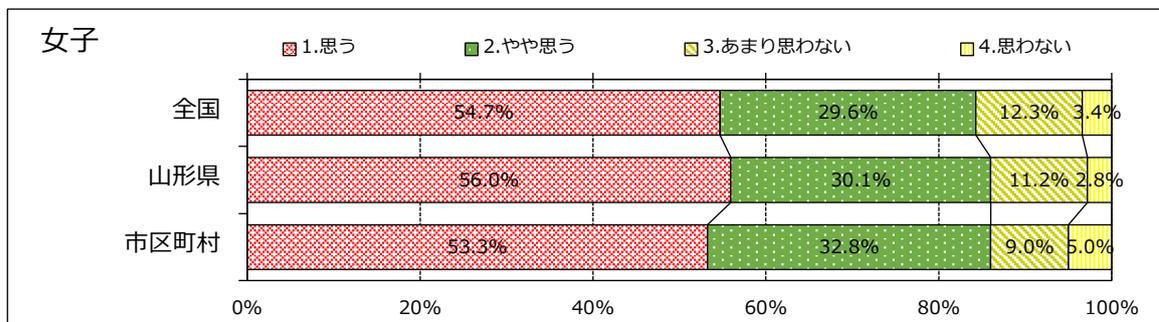
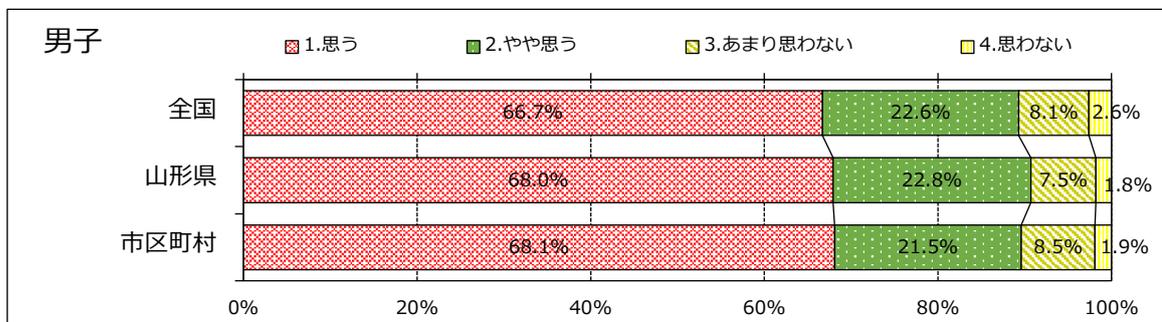
- ・「運動・スポーツが好き」の割合は小学生が中学生より **4.6ポイント**高くなっている。
- ・男女別で見ると、「好き」の割合は小中学生とも男子が女子より高く、「嫌い」の割合は女子が男子より高くなっている。

○卒業後の運動意欲

【小学生】 n=640

- ・中学校に進んだら、「授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」という児童の割合は **60.6%**
- ・男女別で見ると、「思う」の割合は男子が女子より 14.8ポイント高くなっている。また、「思わない」の割合は女子が男子より 3.1ポイント高くなっている。

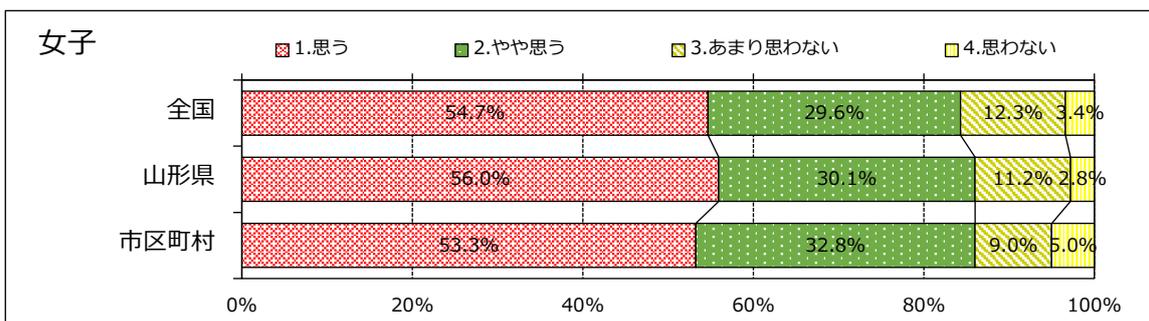
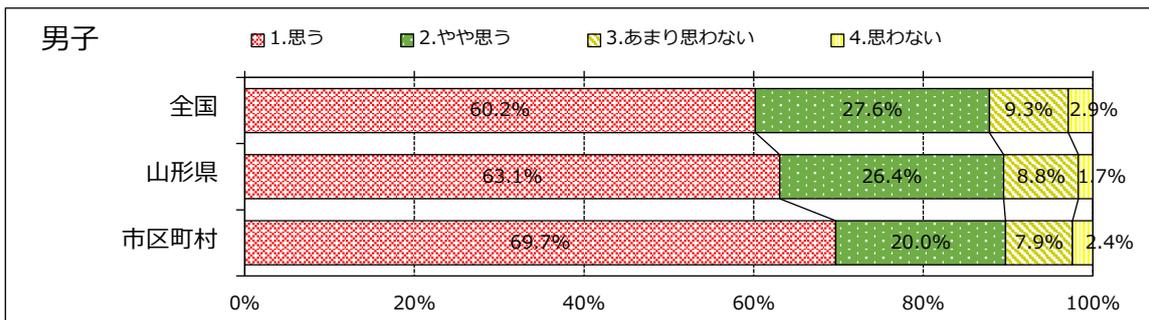
	合計	
	人数	割合
1 思う	388	60.6%
2 やや思う	174	27.2%
3 あまり思わない	56	8.8%
4 思わない	22	3.4%
5 未回答	0	0.0%



【中学生】 n=681

- ・ 中学卒業後、「授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」という生徒の割合は **56.7%**
- ・ 男女別でみると、「思う」の割合は男子が女子より 16.4 ポイント高くなっている。また、「思わない」の割合は女子が男子より 2.6 ポイント高くなっている。

	合計	
	人数	割合
1 思う	386	56.7%
2 やや思う	192	28.2%
3 あまり思わない	77	11.3%
4 思わない	26	3.8%
5 未回答	0	0.0%



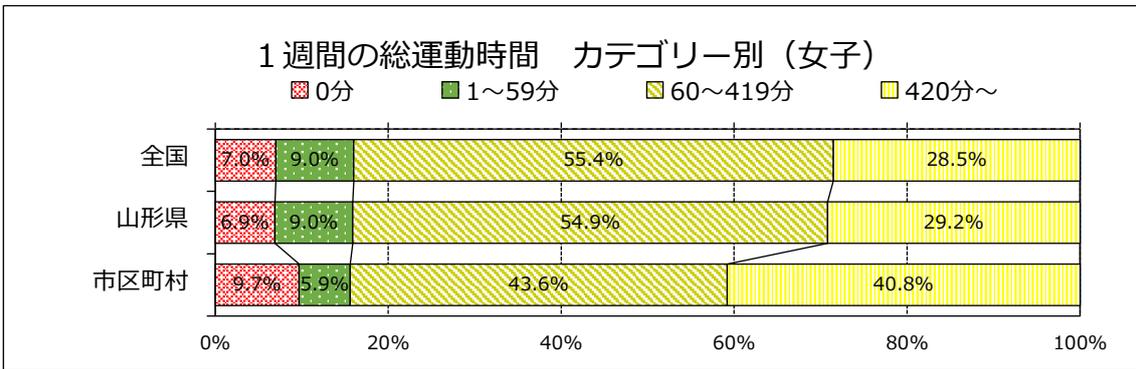
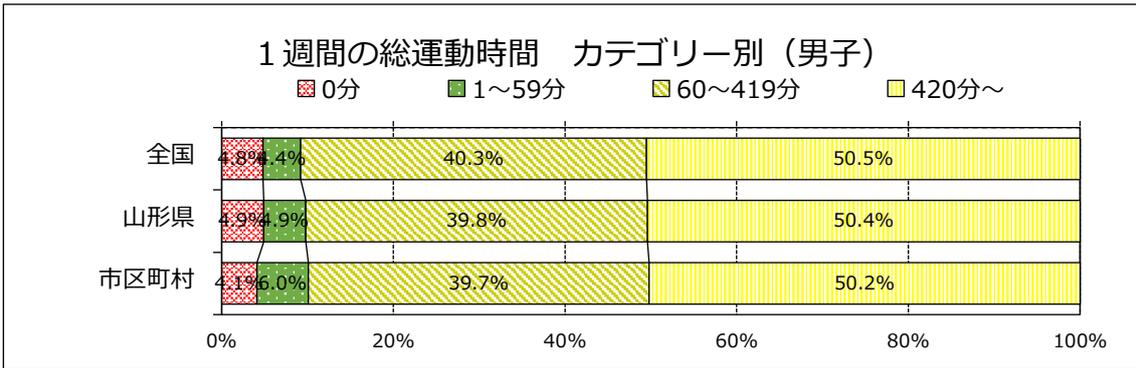
【小中学生比較】

- ・ 卒業後、「授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う割合は小学生が中学生より **3.9 ポイント高くなっている**。
- ・ 男女別で見ると、「授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたい」と思う割合は小中学生とも男子が女子より高く、「思わない」割合は女子が男子より高くなっている。

○1 週間の運動やスポーツの総運動時間（体育の授業以外）

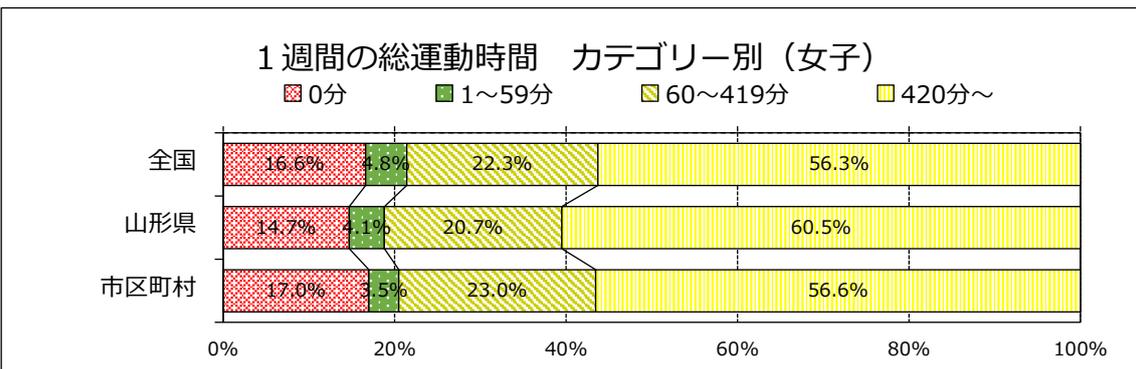
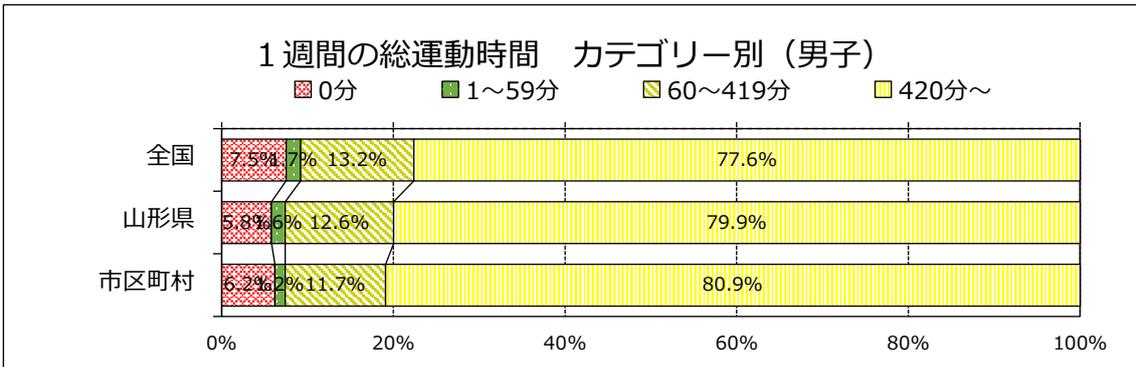
【小学生】

- ・ 1 週間の運動やスポーツの総運動時間（体育の授業以外）が 420 分以上あるという児童の割合は男子で **50.2%**、女子で **40.8%**。
- ・ 男女別で見ると、男子が女子より 9.4 ポイント高くなっているが、女子は全国・山形県平均よりも大幅に割合が高くなっている。



【中学生】

- ・1週間の運動やスポーツの総運動時間（体育の授業以外）が420分以上あるという生徒の割合は男子で**80.9%**、女子で**56.6%**。
- ・男女別で見ると、男子が女子より24.3ポイント高くなっている。



【小中学生比較】

- ・1週間の運動やスポーツの総運動時間（体育の授業以外）が420分以上あるという割合は男女とも中学生が小学生より**高くなっている**。

3 計画における数値目標の推移

（1）基本目標Ⅰ：誰もが楽しめる生涯スポーツ

指 標	基準値	実績値 令和元年	実績値 令和6年	目標値 令和11年
成人の週1回以上のスポーツ実施率	31.0% (平成29年)	48.8%	57.4%	60%
成人の週3回以上のスポーツ実施率	14.4% (平成29年)	22.7%	25.0%	30%
子ども（小学生）のスポーツ実施率	51.4% (令和元年)	51.4%	48.8%	60%
スポーツ行事への参加者数	36,180人 (平成28年)	41,057人	36,038人	38,000人

（2）基本目標Ⅱ：感動と活力に満ちた競技スポーツ

指 標	基準値	実績値 令和元年	実績値 令和6年	目標値 令和11年
国民スポーツ大会への出場競技数	16競技 (平成28年)	20競技	11競技	20競技 以上

（3）基本目標Ⅲ：スポーツによる賑わいとまちづくり

指 標	基準値	実績値 令和元年	実績値 令和6年	目標値 令和11年
湊酒田つや姫ハーフマラソン大会における 交流人口（市外・県外）	1,135人 (平成28年)	1,130人	923人	1200人

（4）基本目標Ⅳ：安全安心なスポーツ活動のための環境整備

指 標	基準値	実績値 令和元年	実績値 令和6年	目標値 令和11年
体育施設の利用者数	759,172人 (平成28年)	685,458人	564,651人	770,000人



酒田市スポーツ推進計画（2019－2029）

発行 | 山形県酒田市教育委員会
〒998-8540 酒田市本町二丁目 2 番 45 号
<http://www.city.sakata.lg.jp>
酒田市教育委員会スポーツ振興課
Email sports@city.sakata.lg.jp